

投資信託説明書
(目論見書)
2010.9.1

りそなJリート・アクティブ・オープン (旧ファンド名:Jリート・アクティブ・オープン) 愛称:日本のツボ

追加型投信／国内／不動産投信

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。

設定・運用は

新光投信株式会社

本文書は、金融商品取引法（昭和23年法律第25号）第13条の規定に基づく目論見書です。

りそなＪリート・アクティブ・オープン (旧ファンド名：Ｊリート・アクティブ・オープン)

愛称：日本のツボ

追加型投信 / 国内 / 不動産投信

当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。

投資信託説明書 (交付目論見書) 2010.9.1

- 本文書「投資信託説明書（交付目論見書）」は金融商品取引法（昭和23年法律第25号）第13条の規定に基づく「目論見書」です。
- 「投資信託説明書（請求目論見書）」（記載項目等については32頁、「第4【ファンドの詳細情報の項目】」をご参照ください。）はお客さまから請求された場合に交付されます。また、お客さまが投資信託説明書（請求目論見書）の交付を請求した場合には、お客さま自身におかれましても交付請求をしたことをご記録いただきますようお願いいたします。
- 投資信託説明書（請求目論見書）に記載されている情報については、下記URLからの入手も可能です。

新光投信株式会社ホームページ
<http://www.shinkotoushin.co.jp/>

金融庁による電子開示（EDINET）閲覧システム
<http://info.edinet-fsa.go.jp/>

- お客さまが投資信託説明書（請求目論見書）の交付を請求した場合は、投資信託説明書（請求目論見書）を受領し、その内容をご確認のうえでお申し込みください。

新光投信株式会社

1. この目論見書により行う「りそな」リート・アクティブ・オープン」の募集について、委託者は、金融商品取引法（昭和23年法律第25号）第5条の規定により有価証券届出書を平成22年6月8日に関東財務局長に提出しており、平成22年6月24日にその届出の効力が生じております。
2. 「りそな」リート・アクティブ・オープン」の基準価額は、同ファンドに組み入れられる有価証券等の値動きによる影響を受けますが、これらの運用による損益は受益者のみなさまに帰属します。したがって、当ファンドは元本が保証されているものではありません。

■ 投資信託ご購入の注意 ■

- ・ 投資信託は、預金・金融債ではありません。預金保険の対象ではありません。元本の保証はありません。
- ・ 投資信託は、保険契約者保護機構の対象ではありません。保険契約における保険金額とは異なり購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。
- ・ 登録金融機関は、投資者保護基金には加入していません。
- ・ 投資信託の運用による成果は、受益者のみなさまに帰属します。
- ・ 投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、投資元本を割り込み損失を被ることがあります。
- ・ 投資信託は、その投資信託財産に組み入れられた株式・債券等の発行体の信用状況の変化（財務状況の悪化や倒産等）により、基準価額が下落して投資元本を割り込み損失を被ることがあります。
- ・ 投資信託は、経済環境等の要因による組入株式の株価の下落や、金利変動等による組入債券の価格の下落により、基準価額が下落して投資元本を割り込み損失を被ることがあります。
- ・ 外貨建資産を組み入れる投資信託は、外国為替相場の変動により、基準価額が下落して投資元本を割り込み損失を被ることがあります。
- ・ 一部の投資信託には、信託期間中に中途換金ができないものや、換金可能日時があらかじめ制限されているもののほか、換金時に信託財産留保額が控除されるもの等があります。
- ・ 投資信託は、商品によっては、上記以外でもその固有な要因により基準価額が下落して投資元本を割り込み損失を被ることがありますので、それぞれの『目論見書』にて必ず商品内容をご確認ください。

お申し込みの際には、下記の事項および投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分お読みください。

りそなＪリート・アクティブ・オープン

下記は、当ファンドのお申し込みをされるご投資家のみなさまにあらかじめ、ご確認いただきたい重要な事項をお知らせするものです。

記

■当ファンドにかかるリスクについて

当ファンドは、主に不動産投資信託証券（Ｊ－ＲＥＩＴ）を実質的な投資対象としますので、Ｊ－ＲＥＩＴの保有不動産への評価、Ｊ－ＲＥＩＴの配当利回り水準に対する評価、企業体としてのＪ－ＲＥＩＴへの評価などが低下した場合には、一般的に組み入れられたＪ－ＲＥＩＴの価格が下落するため、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。

このほか、取引所における取引の需給関係による価格変動リスクや取引量の減少などによる流動性リスクの影響を受け、基準価額が下落し、損失を被る場合があります。

したがって、ご投資家のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

当ファンドの基準価額の主な変動要因には、「価格変動リスク」・「流動性リスク」などがあります。

詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）の【投資リスク】をご覧ください。

（次ページに続きます）

■ 当ファンドにかかる手数料等について

申込手数料

取得申込受付日の基準価額に対して2.1%（税込）を上限に、販売会社が定める率を乗じて得た額です。

詳しくは、販売会社でご確認ください。

換金（解約）手数料

ありません。

信託財産留保額

ありません。

信託報酬

ファンドの純資産総額に対して年1.05%（税込）です。

その他費用

監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、資産の保管費用などファンドを通じて、間接的にご負担いただきます。

なお、その他費用については、定時に見直されるものや売買条件等により異なるものがあるため、当該費用および合計額（上限額等を含む）を表示することができません。

また、当ファンドが投資対象とする上場投資信託（REIT）は市場の需給により価格形成されるため、上場投資信託の費用は表示しておりません。

手数料等の合計額については、申込金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）の【手数料等及び税金】をご覧ください。

《有価証券届出書の表紙記載項目》

有 価 証 券 届 出 書 提 出 日	平成22年6月8日
発 行 者 名	新光投信株式会社
代 表 者 の 役 職 ・ 氏 名	代表取締役社長 吉田 昭
本 店 の 所 在 の 場 所	東京都中央区日本橋一丁目17番10号
届出の対象とした募集	
募集内国投資信託受益証券に係る フ ァ ン ド の 名 称	りそなJリート・アクティブ・オープン (旧ファンド名：Jリート・アクティブ・オープン)
募集内国投資信託受益証券の金額	当初自己設定 100億円を上限とします。 継続申込期間 1兆円を上限とします。
有 価 証 券 届 出 書 の 写 し を 縦 覧 に 供 す る 場 所	該当事項なし

目 次

ファンドの概要	1
第一部 【証券情報】	4
第二部 【ファンド情報】	7
第1 【ファンドの状況】	7
1 【ファンドの性格】	7
2 【投資方針】	13
3 【投資リスク】	20
4 【手数料等及び税金】	23
5 【運用状況】	26
6 【手続等の概要】	27
7 【管理及び運営の概要】	28
第2 【財務ハイライト情報】	31
第3 【内国投資信託受益証券事務の概要】	31
第4 【ファンドの詳細情報の項目】	32
約款	33
投信用語集	43

ファンドの概要

この概要は、投資信託説明書（交付目論見書）の記載内容を要約したものです。
詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）の該当箇所をご覧ください。

フ ァ ン ド 名	りそなＪリート・アクティブ・オープン 愛称として「日本のツボ」という名称を用いることがあります。 （以下「ファンド」または「当ファンド」といいます。）
商 品 分 類	追加型投信 / 国内 / 不動産投信
主 な 投 資 対 象 と ファンドのねらい	当ファンドは、新光Ｊ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンド受益証券 （以下「マザーファンド」といいます。）を主要投資対象として、配当 等収益の確保と投資信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。
運 用 方 針	主として、マザーファンドに投資することにより、わが国の取引所に上場（上場予定を含みます。）している不動産投資信託受益証券および不動産投資法人投資証券（以下総称して「不動産投資信託証券」といいます。）に実質的に投資を行い、配当等収益の確保と投資信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。 不動産投資信託証券の実質組入比率は、原則として高位とすることを基本とします。 設定当初等で投資信託財産が小規模である場合、市況の急激な変化が予想される場合、また、やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用を行わない場合があります。
主 な 投 資 制 限	不動産投資信託証券への実質的な投資割合には制限を設けません。 同一銘柄の不動産投資信託証券への実質的な投資割合は、取得時において投資信託財産の純資産総額の20%以下とします。 不動産投資信託証券および短期金融商品（短期運用の有価証券を含みます。）以外には実質的に投資を行いません。 外貨建資産への直接投資は行いません。
基 準 価 額 の 変 動 リ ス ク	当ファンドは以下の理由により元本が保証されたものではありません。 ・ 不動産投資信託証券は、様々な角度からの市場の評価により価格が変動し、当ファンドの基準価額と収益分配金に影響を及ぼします。 - 不動産投資信託の保有不動産への評価 - 不動産投資信託の配当利回り水準に対する評価 - 企業体としての不動産投資信託への評価 ・ 不動産投資信託証券には次のような有価証券としてのリスクがあり、当ファンドの基準価額と収益分配金に影響を及ぼします。 - 取引所における取引の需給関係による価格変動リスク - 取引所における取引量が減少または無くなることによる流動性リスク

申 込 期 間	当初自己設定：平成22年6月24日 継続申込期間：平成22年6月24日から平成23年9月22日までです。 なお、申込期間は原則として更新されます。
信 託 期 間	平成22年6月24日から平成32年6月22日までです。 ただし、一定の条件により、信託期間を延長または繰上償還する場合があります。
収 益 分 配	原則として、毎決算時（毎月22日。休業日の場合は翌営業日。）に、収益分配方針に基づき収益の分配を行います。ただし、第1期および第2期決算時は、原則として分配を行いません。 「分配金再投資コース」の受益者の分配金は、税金を差し引いた後、自動的に無手数料で全額再投資されます。
申 込 価 額	当初自己設定：1口当たり1円です。 継続申込期間：取得申込受付日の基準価額です。
申 込 単 位 (当初元本1口＝1円)	お申込単位は販売会社またはお申込コースにより異なります。 お申込コースには、「分配金受取コース」と「分配金再投資コース」の2コースがあります。ただし、販売会社によっては、どちらか一方のみの取り扱いとなる場合があります。 詳しくは販売会社または新光投信にお問い合わせください。
申 込 手 数 料	取得申込受付日の基準価額に、2.1%（税込）を上限として、販売会社がそれぞれ独自に定める手数料率を乗じて得た金額となります。 詳しくは販売会社または新光投信にお問い合わせください。 「償還乗り換え」、「償還前乗り換え」に関する手数料の優遇については、販売会社ごとに取り扱いが異なります。詳しくは販売会社でご確認ください。
途 中 解 約	「分配金受取コース」、「分配金再投資コース」の両コースとも販売会社の定める単位でいつでもご解約できます。 ご解約価額は解約申込受付日の基準価額です。 なお、ご解約された代金は原則として、解約申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。 また、投資信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の解約請求に制限を設ける場合があります。
取得および解約のお申し込みの受付は、原則として営業日の午後3時までとし、当該受付時間を過ぎた場合の申込受付日は翌営業日となります。ただし、受付時間は販売会社によって異なる場合があります。	

信託財産留保額	ありません。
信託報酬	投資信託財産の純資産総額に対して年1.05%（税込）です。
設定日	平成22年6月24日です。

ご投資家のみなさまにおかれましては、商品の内容を十分にご理解のうえお申し込みくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

当ファンドにつきましてご不明な点は、販売会社または下記にお問い合わせください。

新光投信株式会社 ヘルプデスク
フリーダイヤル 0120-104-694
（受付時間は営業日の午前9時～午後5時です。）
インターネットホームページ
<http://www.shinkotoushin.co.jp/>

第一部 【証券情報】

(1) 【ファンドの名称】

りそな「リート・アクティブ・オープン

愛称として「日本のツボ」という名称を用いることがあります。

(以下「ファンド」または「当ファンド」といいます。)

(2) 【内国投資信託受益証券の形態等】

(イ) 追加型株式投資信託(契約型)の受益権です。

(ロ) 当初元本は1口当たり1円です。

(ハ) 格付けは取得していません。

当ファンドの受益権は、「社債、株式等の振替に関する法律」(以下「社振法」といいます。)の規定の適用を受けており、受益権の帰属は、後述の「(11)【振替機関に関する事項】」に記載の振替機関および当該振替機関の下位の口座管理機関(社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。)の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります(以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。)。新光投信株式会社(以下「委託者」といいます。)は、やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。また、振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

(3) 【発行(売出)価額の総額】

当初自己設定 100億円を上限とします。

継続申込期間 1兆円を上限とします。

(4) 【発行(売出)価格】

(イ) 当初自己設定 1口当たり1円です。

継続申込期間 取得申込受付日の基準価額です。

なお、当ファンドの基準価額については1万口当たりの価額を発表します。

「基準価額」とは、ファンドの資産総額から負債総額を控除した金額(純資産総額)をそのときの受益権口数で除した1口当たりの純資産価額をいいます。基準価額は、組み入れる有価証券等の値動きにより日々変動します。

(ロ) 基準価額は毎営業日に算出されますので、販売会社または新光投信(3頁欄外をご参照ください。)にお問い合わせください。

基準価額は、原則として計算日の翌日付の日本経済新聞朝刊に掲載されます。また、お問い合わせいただけます基準価額は、前日以前のものとなります。

(5) 【申込手数料】

申込手数料は、取得申込受付日の基準価額に、2.1%(税込)を上限として販売会社がそれぞれ独自に定める手数料率を乗じて得た金額となります。当該手数料には消費税および地方消費税(以下「消費税等」といいます。)(5%)が含まれます。

手数料について、詳しくは販売会社または新光投信(3頁欄外をご参照ください。)にお問い合わせください。

なお、「分配金再投資コース」で収益分配金を再投資する場合は無手数料です。

当ファンドの受益権の取得申込者が「償還乗り換え」¹または「償還前乗り換え」²に

より当ファンドの受益権を取得する場合、申込手数料の優遇を受けることができる場合があります。

ただし、上記の申込手数料の優遇に関しては、優遇制度の取り扱い、優遇の内容、優遇を受けるための条件等は販売会社ごとに異なりますので、詳しくは各販売会社でご確認ください。

1 「償還乗り換え」とは、取得申込受付日前の一定期間内に既に償還となった証券投資信託の償還金等をもって、その支払いを行った販売会社で当ファンドの受益権を取得する場合をいいます。

2 「償還前乗り換え」とは、償還することが決定している証券投資信託の償還日前の一定期間内において、当該証券投資信託の一部解約金をもって、その支払いを行った販売会社で当ファンドの受益権を取得する場合をいいます。

(6) 【申込単位】

お申込単位は、販売会社またはお申込コースにより異なります。

お申込コースには、収益の分配時に分配金を受け取るコース（「分配金受取コース」）と、分配金が税引き後無手数料で再投資されるコース（「分配金再投資コース」）の2コースがあります。ただし、販売会社によっては、どちらか一方のみの取り扱いとなる場合があります。

詳しくは販売会社または新光投信（3頁欄外をご参照ください。）にお問い合わせください。

(7) 【申込期間】

当初自己設定 平成22年6月24日です。

継続申込期間 平成22年6月24日から平成23年9月22日までです。

なお、申込期間は原則として更新されます。

(8) 【申込取扱場所】

申し込みの取扱場所（販売会社）については、新光投信（3頁欄外をご参照ください。）にお問い合わせください。

(9) 【払込期日】

(イ) 当初自己設定

委託者は、当初設定日（平成22年6月24日）に、自己設定にかかる総額を、株式会社りそな銀行（以下「受託者」といいます。）の指定する当ファンドの口座に払い込みます。

(ロ) 継続申込期間

当ファンドの受益権の取得申込者は、申込金額に手数料および当該手数料にかかる消費税等を加算した金額を販売会社が指定する期日までに支払うものとします。

各取得申込受付日ごとの申込金額の総額は、販売会社によって、当該追加信託が行われる日に、委託者の指定する口座を経由して、受託者の指定する当ファンドの口座に払い込まれます。

(10) 【払込取扱場所】

払い込みの取り扱いを行う場所は、販売会社となります。詳しくは販売会社でご確認ください。

(11) 【振替機関に関する事項】

当ファンドの振替機関は、株式会社証券保管振替機構です。

(12) 【その他】

(イ) 申込証拠金

ありません。

(ロ) 日本以外の地域における発行

ありません。

(ハ) 振替受益権について

当ファンドの受益権は、社振法の規定の適用を受け、上記「(11) 【振替機関に関する事項】」に記載の振替機関の振替業にかかる業務規程等の規則にしたがって取り扱われるものとします。

当ファンドの分配金、償還金、解約代金は、社振法および上記「(11) 【振替機関に関する事項】」に記載の振替機関の業務規程その他の規則にしたがって支払われます。

第二部 【ファンド情報】

第1 【ファンドの状況】

1 【ファンドの性格】

(1) 【ファンドの目的及び基本的性格】

a. ファンドの目的及び基本的性格

当ファンドは、追加型投信 / 国内 / 不動産投信に属し、新光J-REITアクティブ・マザーファンド受益証券（以下「マザーファンド」といいます。）を主要投資対象とし、配当等収益の確保と投資信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。

当ファンドは、社団法人投資信託協会が定める商品分類において、以下のように分類・区分されます。

■ 商品分類表

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単位型	国内	株式
	海外	債券
追加型	内外	不動産投信
		その他資産 ()
		資産複合

(注) 当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

■ 分類の定義

追加型投信	一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の投資信託財産とともに運用されるファンドをいう。
国内	目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
不動産投信 (リート)	目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に不動産投資信託の受益証券および不動産投資法人の投資証券を源泉とする旨の記載があるものをいう。

■ 属性区分表

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態
株式 一般 大型株 中小型株	年 1 回	グローバル	
	年 2 回	日本	
	年 4 回	北米	
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 ()	年 6 回 (隔月)	欧州	ファミリーファンド
	年12回 (毎月)	アジア	
	日々	オセアニア	
	その他 ()	中南米	ファンド・オブ・ファンズ
不動産投信		アフリカ	
その他資産 (投資信託証券 (不動産投信))		中近東 (中東)	
		エマージング	
資産複合 () 資産配分固定型 資産配分変更型			

(注) 当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

■ 属性の定義

その他資産 (投資信託証券 (不動産投信))	投資信託証券 (不動産投信) に投資を行います。
年12回 (毎月)	目論見書または投資信託約款において、年12回 (毎月) 決算する旨の記載があるものをいう。
日本	目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
ファミリーファンド	目論見書または投資信託約款において、親投資信託 (ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除く。) を投資対象として投資するものをいう。

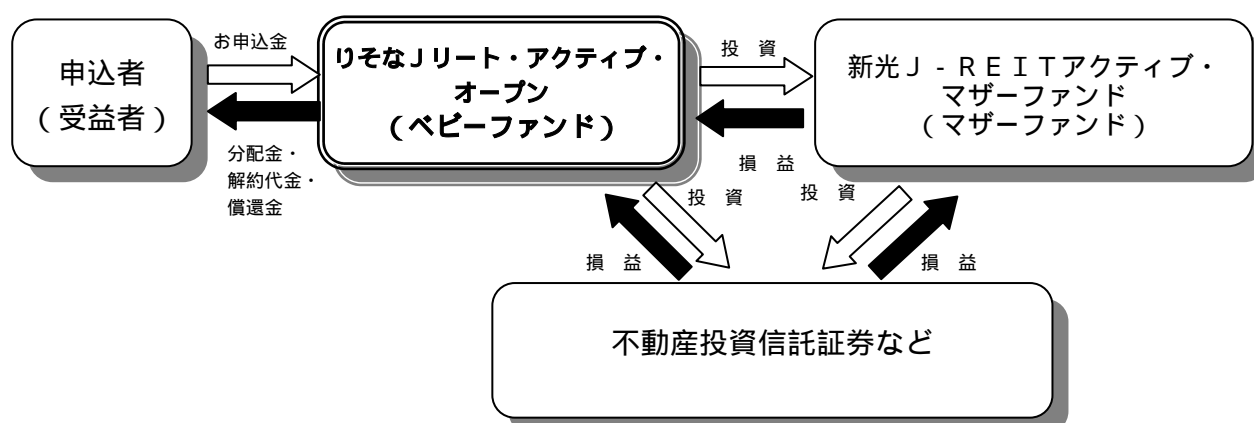
当ファンドはファミリーファンド方式で運用します。このため、組み入れている資産を示す「属性区分表」の投資対象資産 (その他資産 (投資信託証券)) と、収益の源泉となる資産を示す「商品分類表」の投資対象資産 (不動産投信) とは異なります。

商品分類および属性区分の定義については、社団法人投資信託協会のホームページ (<http://www.toushin.or.jp/>) をご参照ください。

当ファンドの運用は「ファミリーファンド方式」で行います。「ファミリーファンド方式」とは、複数のファンドを合同運用する仕組みで、受益者のみなさまからお預かりした資金をベビーファンド（当ファンド）としてとりまとめ、その資金の全部または一部をマザーファンド（新光Ｊ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンド）受益証券に投資することにより、実質的な運用をマザーファンドで行う仕組みです。ベビーファンドがマザーファンドに投資する際のコストはかかりません。また、マザーファンドの損益はすべてベビーファンドに反映されます。

なお、当ファンドはわが国の取引所に上場（上場予定を含みます。）している不動産投資信託証券を直接組み入れる場合があります。

また、新たなベビーファンドを設定し新光Ｊ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンドに投資すること、または現在新光Ｊ－ＲＥＩＴアクティブ・マザーファンドに投資しているベビーファンドを償還することがあります。

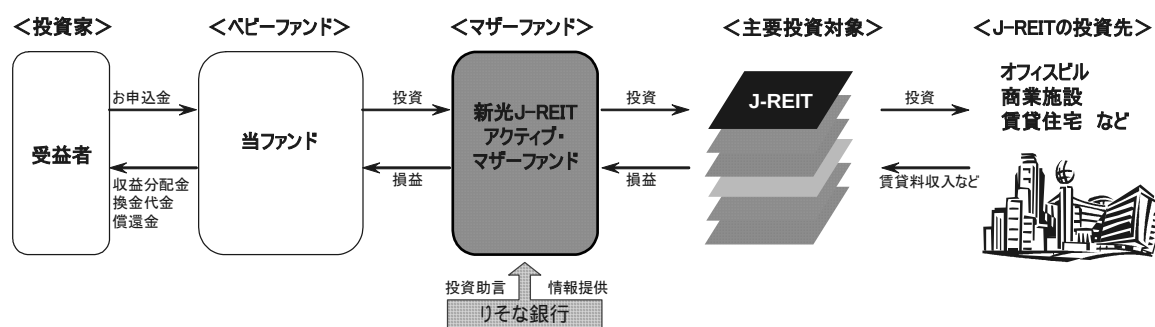


b. ファンドの特色

1

主として「新光J-REITアクティブ・マザーファンド」受益証券（以下「マザーファンド」といいます。）への投資を通じて、わが国の取引所に上場（上場予定を含みます。）している不動産投資信託証券（以下「J-REIT」といいます。）に実質的に投資を行い、配当等収益の確保と投資信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。

- ・わが国の取引所に上場（上場予定を含みます。）しているJ-REITに直接投資する場合があります。
- ・J-REITの実質組入比率は、原則として高位とすることを基本とします。



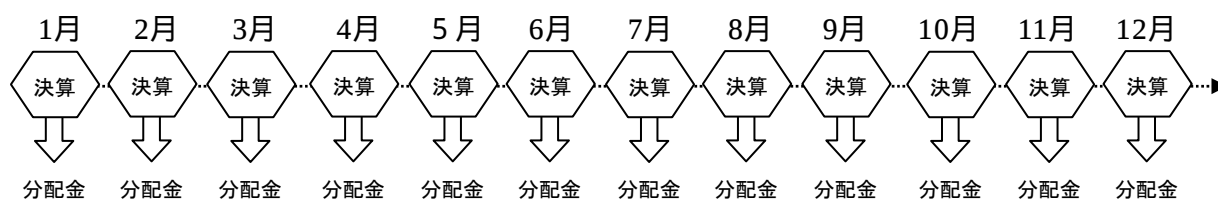
2

マザーファンドにおいては、個別銘柄の調査・分析に基づいて、相対的に高水準の配当金の確保を図りつつ、投資信託財産の長期的な値上がり益の獲得を目指しアクティブに運用を行います。

- ・マザーファンドの運用にあたっては、株式会社りそな銀行より投資助言および情報提供を受けます。

3

原則として毎月決算を行い、利子・配当等収益を中心に安定した収益分配を目指します。



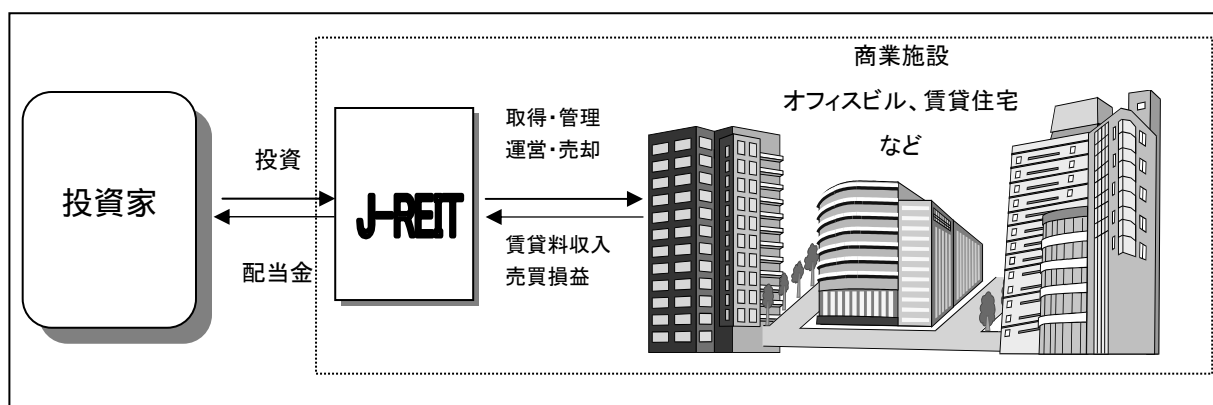
- ・毎月22日（当該日が休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。なお、収益分配は第3期決算時（平成22年9月22日）より行います。
- ・分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。
- ・運用状況により分配金額は変動します。
- ・分配対象額の範囲内で基準価額水準や市況動向などを勘案して委託者が決定する額を付加して分配する場合があります。

設定当初などで投資信託財産が小規模である場合、市況の急激な変化が予想される場合、また、やむを得ない事情が発生した場合には、上記1、2のような運用を行わない場合があります。

新光J-REITアクティブ・マザーファンドが主要投資対象とする…

J-REIT(Japanese Real Estate Investment Trust)とは？

- J-REITとは、日本の不動産投資信託証券のことです。投資家から資金を集めて様々な不動産を所有・管理・運営する不動産投資信託ならびに不動産投資法人(以下「不動産投資信託」といいます。)が発行する証券の一般総称です。
- 不動産投資信託は、オフィスビル、商業施設などの不動産を保有・売買することで得られる賃貸料収入や売買益などを収益とし、不動産の運営に必要な経費などを差し引いて残った利益のほとんどを配当金として投資家に支払います。



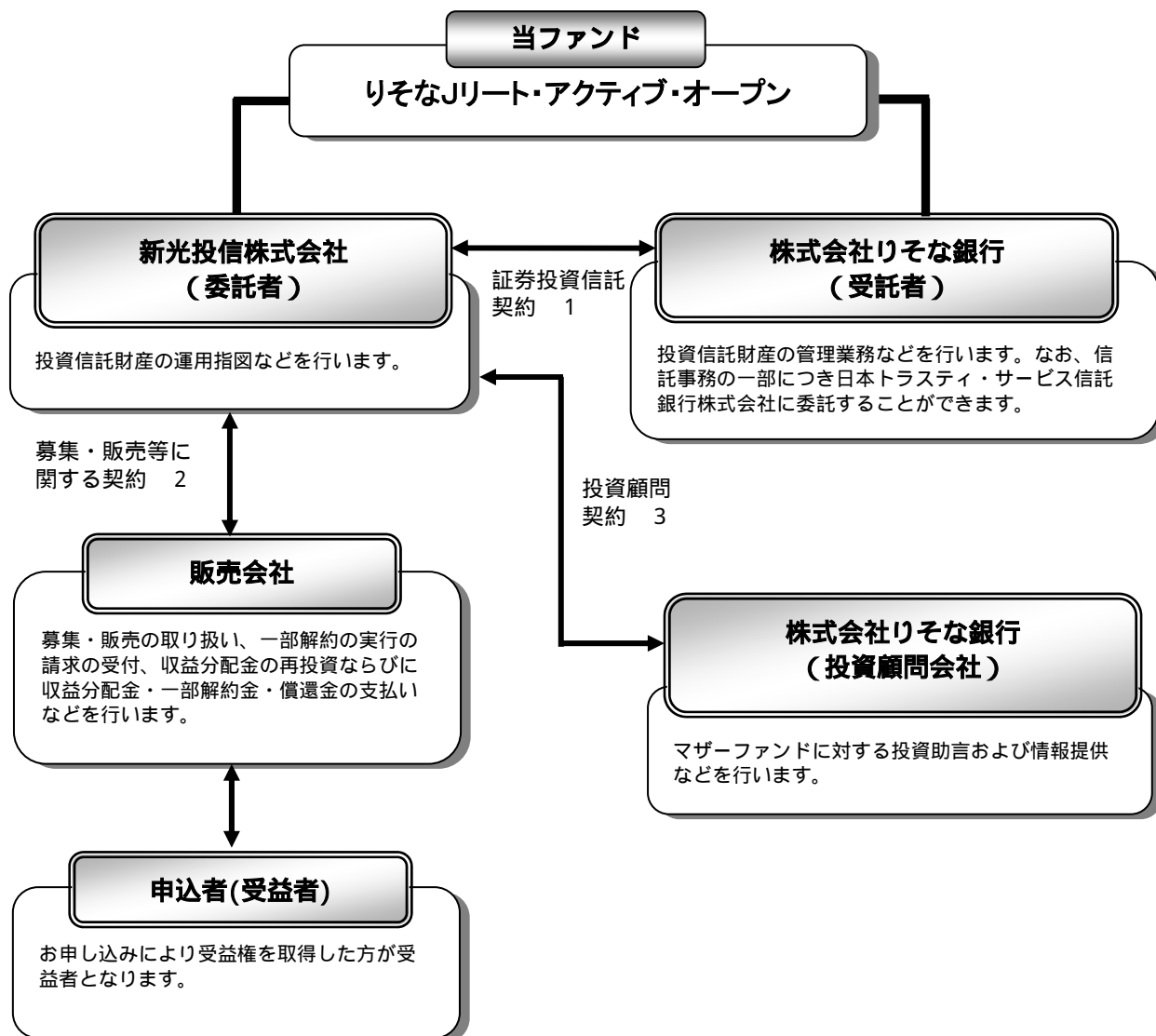
c. 信託金限度額

委託者は、受託者と合意のうえ、金1,000億円を限度として信託金を追加することができます。

委託者は、受託者と合意のうえ、上記の限度額を変更することができます。

(2) 【ファンドの仕組み】

a. ファンドの仕組み



1 証券投資信託契約

委託者と受託者との間において「証券投資信託契約（投資信託約款）」を締結しており、委託者および受託者の業務、受益者の権利、受益権、投資信託財産の運用・評価・管理、収益の分配、信託の期間・償還等を規定しています。

2 募集・販売等に関する契約

委託者と販売会社との間において「証券投資信託に関する基本契約」を締結しており、販売会社が行う募集・販売等の取り扱い、収益分配金および償還金の支払い、解約の取り扱い等を規定しています。

3 投資顧問契約

委託者と投資顧問会社との間において「投資顧問契約」を締結しており、投資顧問会社が提供する役務、委託者への報告、投資顧問会社に対する報酬、契約の期間等を規定しています。

b. 委託会社の概況

(イ) 資本金の額

現在の資本金の額	45億2,430万円
会社が発行する株式総数	3,000,000株
発行済株式総数	1,823,250株

(ロ) 委託会社の沿革

昭和36年6月	大井証券投資信託委託株式会社設立・免許取得
昭和44年10月	新和光投信委託株式会社に社名変更
昭和61年11月	有価証券等に関する投資助言・情報提供業務の認可
平成8年8月	投資顧問業者の登録
平成8年12月	投資一任契約にかかる業務の認可
平成9年11月	投資信託の直接販売業務の認可
平成10年12月	証券投資信託法の改正に伴う投資信託の証券投資信託委託業のみなし認可
平成12年4月	太陽投信委託株式会社と合併し、新光投信株式会社に社名変更

(ハ) 大株主の状況

(本書提出日現在)

株主名	住所	持株数	持株比率
みずほ証券株式会社	東京都千代田区大手町1-5-1	1,393,462株	76.42%
株式会社みずほ証券リサーチ & コンサルティング	東京都中央区日本橋1-17-10	120,000	6.58
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区内幸町1-1-5	91,086	4.99
株式会社みずほコーポレート銀行	東京都千代田区丸の内1-3-3	91,029	4.99

2【投資方針】

(1)【投資方針】

a. 基本方針

当ファンドは、新光J-REITアクティブ・マザーファンド受益証券を主要投資対象として、配当等収益の確保と投資信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。

b. 運用の方法

(イ) 主要投資対象

新光J-REITアクティブ・マザーファンド受益証券（以下「マザーファンド」といいます。）を主要投資対象とします。なお、わが国の取引所に上場（上場予定を含みます。）している不動産投資信託受益証券および不動産投資法人投資証券（以下総称して「不動産投資信託証券」といいます。）に直接投資する場合があります。

(ロ) 投資態度

主として、マザーファンドに投資することにより、わが国の取引所に上場（上場予定を含みます。）している不動産投資信託証券に実質的に投資を行い、配当等収益の確保と投資信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。

不動産投資信託証券の実質組入比率は、原則として高位とすることを基本とします。

設定当初等で投資信託財産が小規模である場合、市況の急激な変化が予想される場合、また、やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用を行わない場合があります。

(八) 主な投資制限

不動産投資信託証券への実質的な投資割合には制限を設けません。

同一銘柄の不動産投資信託証券への実質的な投資割合は、取得時において投資信託財産の純資産総額の20%以下とします。

不動産投資信託証券および短期金融商品（短期運用の有価証券を含みます。）以外には実質的に投資を行いません。

外貨建資産への直接投資は行いません。

マザーファンドの運用方針

新光J - R E I Tアクティブ・マザーファンド

1．基本方針

この投資信託は、わが国の取引所に上場（上場予定を含みます。）している不動産投資信託証券を主要投資対象として、配当等収益の確保と投資信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。

2．運用方法

(1) 投資対象

わが国の取引所に上場（上場予定を含みます。）している不動産投資信託証券を主要投資対象とします。

(2) 投資態度

主として、わが国の取引所に上場（上場予定を含みます。）している不動産投資信託証券に投資することにより、配当等収益の確保と投資信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。

個別銘柄の調査・分析に基づいて、相対的に高水準の配当金の確保を図りつつ、長期的な値上がり益の獲得を目指しアクティブに運用を行います。

不動産投資信託証券の組入比率は、原則として高位とすることを基本とします。

運用にあたっては、株式会社りそな銀行より投資助言および情報提供を受けます。

設定当初等で投資信託財産が小規模である場合、市況の急激な変化が予想される場合、また、やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用を行わない場合があります。

(3) 投資制限

不動産投資信託証券への投資割合には制限を設けません。

同一銘柄の不動産投資信託証券への投資割合は、取得時において投資信託財産の純資産総額の20%以下とします。

不動産投資信託証券および短期金融商品（短期運用の有価証券を含みます。）以外には投資を行いません。

外貨建資産への直接投資は行いません。

3. 収益分配方針

運用による収益は、信託終了時まで投資信託財産中に留保し、期中には分配を行いません。

平成22年9月1日現在、「新光」- R E I Tアクティブ・マザーファンド」を投資対象とするベビーファンドは、当ファンド以外ありません。

(2) 【投資対象】

a. 投資の対象とする資産の種類

当ファンドにおいて投資の対象とする資産（本邦通貨表示のものに限ります。）の種類は、次に掲げるものとします。

1. 次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。）

イ. 有価証券

ロ. デリバティブ取引にかかる権利（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、約款に定めるものに限ります。）

ハ. 金銭債権

ニ. 約束手形

2. 次に掲げる特定資産以外の資産

イ. 為替手形

b. 有価証券および金融商品の指図範囲等

(イ) 委託者は、信託金を、主として新光投信株式会社を委託者とし、株式会社りそな銀行を受託者として締結された新光」- R E I Tアクティブ・マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）の受益証券ならびに次に掲げる有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。有価証券は本邦通貨表示のものに限ります。）に投資することを指図します。

1. コマーシャル・ペーパー

2. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前号の証券の性質を有するもの

3. 投資信託または外国投資信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。）

4. 投資証券または外国投資証券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。）

5. 国債証券、地方債証券、特別の法律により法人の発行する債券および社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券を除きます。）

6. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）

なお、第3号の証券および第4号の証券を以下「投資信託証券」といい、第5号の証券を以下「公社債」といいます。公社債にかかる運用の指図は短期社債等への投資ならびに買い現先取引（売り戻し条件付きの買い入れ）および債券貸借取引（現金担保

付き債券借り入れ)に限り行うことができるものとします。

(ロ) 委託者は、信託金を、上記(イ)に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。)により運用することを指図することができます。

1. 預金

2. 指定金銭信託(金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。)

3. コール・ローン

4. 手形割引市場において売買される手形

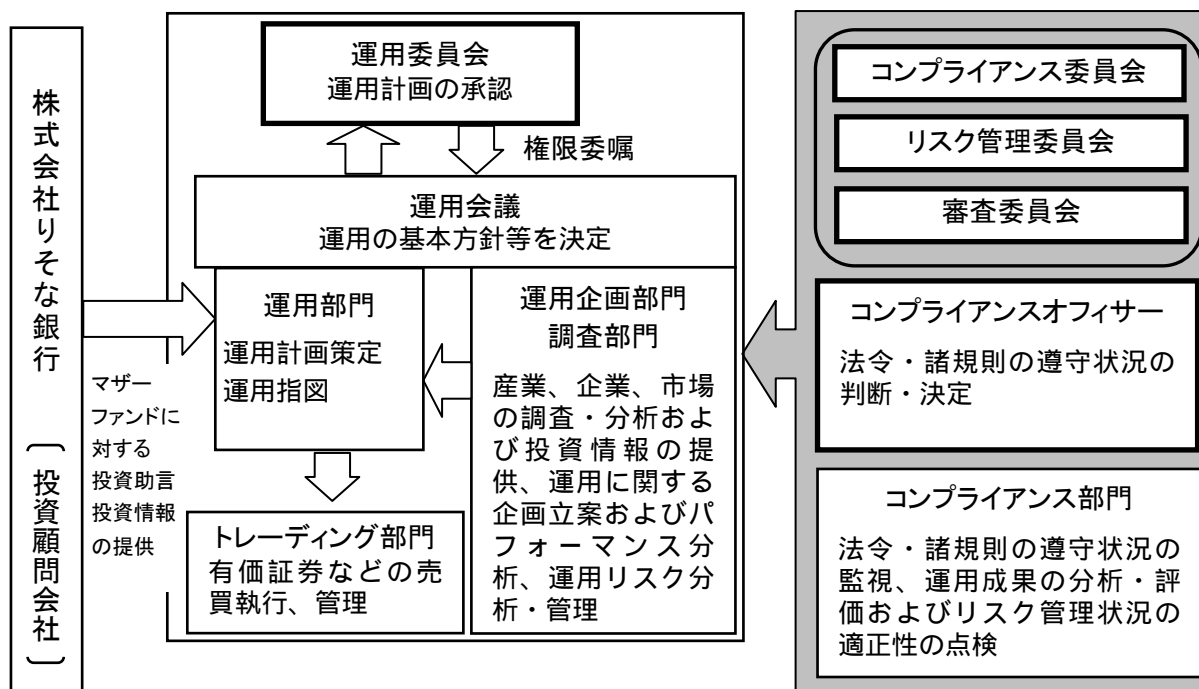
(ハ) 上記(イ)の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託者が運用上必要と認めるときには、委託者は、信託金を、上記(ロ)に掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

c. 先物

委託者は、わが国の取引所における有価証券指数等先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。)のうちわが国の不動産投信指数を対象とする先物取引(以下「不動産投信指数先物取引」といいます。)ならびに外国の取引所におけるこの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。

(3) 【運用体制】

a．当ファンドの運用体制



上記体制は平成22年9月1日現在のものであり、今後変更になることがあります。

● PLAN

- ・運用委員会から権限委嘱された運用会議を運用部署全体（運用部門、運用企画部門、調査部門）で開催し、アセットアロケーションの方針等の運用の基本方針を決定します。
- ・各運用担当者はこの運用の基本方針を踏まえ、投資顧問会社からの投資助言および提供された情報等を参考に運用計画を作成します。
- ・コンプライアンス部門およびコンプライアンスオフィサーはこの運用計画に対して、投資行動に関わるコンプライアンスチェックを実施します。
- ・運用計画は最終的に運用委員会において承認されます。

● DO

- ・ファンドマネージャーは運用委員会で承認された運用計画に基づいて指図を行います。
- ・売買の執行・管理はトレーディング部門が行います。

● SEE

- ・コンプライアンス部門は日々の運用指図および売買執行について法令・諸規則の遵守状況の点検を行い、必要に応じて運用部門を牽制します。
- ・運用企画部門は日々の運用リスク等の管理のほか、投資信託財産のパフォーマンス分析を行います。
- ・コンプライアンス部門は月次で開催される審査委員会、コンプライアンス委員会、リスク管理委員会において運用成果、法令・諸規則の遵守状況、運用リスク管理状況等について検証・報告を行います。

< 受託者に対する管理体制 >

投資信託財産の管理業務を通じ、受託者の信託事務の正確性・迅速性、システム対応力等を総合的に検証しています。また、受託者より内部統制の整備および運用状況の報告書を受け取っています。

b. 運用体制に関する社内規則

運用に関する社内規則として運用規程・細則および職務権限規程の内規等を設けており、ファンドマネージャーの任務と権限の範囲を明示するほか、各投資対象の取り扱いに関して基準を設け、ファンドの商品性に則った適切な運用の実現を図っています。

また、売買執行、投資信託財産管理および法令遵守チェック等に関する各々の規程・内規があります。

(4) 【分配方針】

a. 収益分配は原則として、毎月22日（該当日が休業日の場合は翌営業日。）の決算時に以下の方針に基づき収益の分配を行います。

1. 分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。
2. 分配金額は、経費控除後の利子・配当等収益を中心に安定した分配を行うことを目標に委託者が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。また、第1期および第2期決算時は、原則として分配を行いません。
3. 前項にかかわらず、前項にかかる分配金額のほか、分配対象額の範囲内で基準価額水準や市況動向等を勘案して委託者が決定する額を付加して分配する場合があります。
4. 留保益の運用については、特に制限を設けず、運用の基本方針に基づいた運用を行います。

b. 投資信託財産から生ずる毎計算期末における利益は、次の方法により処理します。

1. 分配金、配当金、利子およびこれらに類する収益から支払利息を控除した額（以下「配当等収益」といいます。）は、諸経費、信託報酬および当該信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を控除した後、その残金を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配金にあてるため、その一部を分配準備積立金として積み立てることができます。
2. 売買損益に評価損益を加減した利益金額（以下「売買益」といいます。）は、諸経費、信託報酬および当該信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を控除し、繰越欠損金のあるときは、その全額を売買益をもって補てんした後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてるため、分配準備積立金として積み立てることができます。

c. 毎計算期末において、投資信託財産につき生じた損失は、次期に繰り越します。

d. 「分配金受取コース」の受益者の分配金は原則として、決算日から起算して5営業日までに、受益者に支払われます。

「分配金再投資コース」の受益者の分配金は、税金を差し引いた後、別に定める契約に基づき、全額再投資されます。

(5) 【投資制限】

投資信託約款に定める投資制限

a．投資信託証券への投資割合

不動産投資信託証券への実質的な投資割合には制限を設けません。

b．同一銘柄の投資信託証券への投資割合

(イ) 委託者は、取得時において投資信託財産に属する同一銘柄の不動産投資信託証券の時価総額とマザーファンドの投資信託財産に属する当該不動産投資信託証券の時価総額のうち投資信託財産に属するとみなした額との合計額が、投資信託財産の純資産総額の100分の20を超えることとなる投資の指図をしません。

(ロ) 上記(イ)において投資信託財産に属するとみなした額とは、投資信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの投資信託財産の純資産総額に占める当該資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。

c．公社債の借り入れ

(イ) 委託者は、投資信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借り入れの指図をすることができます。なお、当該公社債の借り入れを行うにあたり担保の提供が必要と認めたときは、担保の提供の指図を行うものとします。

(ロ) 借り入れの指図は、当該借り入れにかかる公社債の時価総額が投資信託財産の純資産総額の範囲内とします。

(ハ) 投資信託財産の一部解約等の事由により、上記(ロ)の借り入れにかかる公社債の時価総額が投資信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者はすみやかに、その超える額に相当する借り入れた公社債の一部を返還するための指図をするものとします。

(ニ) 借り入れにかかる品借料は投資信託財産中から支払われます。

d．外貨建資産への投資割合

外貨建資産への直接投資は行いません。

e．資金の借り入れ

(イ) 委託者は、投資信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て(一部解約に伴う支払資金の手当てのために借り入れた資金の返済を含みます。)を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借り入れ(コール市場を通じる場合を含みます。)の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。

(ロ) 一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から投資信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から投資信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から投資信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および償還金の合計額を限度とします。ただし、資金の借入額は、借入指図を行う日における投資信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。

- (ハ) 収益分配金の再投資にかかる借入期間は投資信託財産から収益分配金が支払われる日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
- (ニ) 借入金の利息は投資信託財産中より支払われます。
- f. 利害関係人等との取引等
- (イ) 受託者は、受益者の保護に支障を生じることがないものであり、かつ信託業法、投資信託及び投資法人に関する法律ならびに関連法令に反しない場合には、委託者の指図により、投資信託財産と、受託者（第三者との間において投資信託財産のためにする取引その他の行為であって、受託者が当該第三者の代理人となっていくものを含みます。）および受託者の利害関係人、信託業務の委託先およびその利害関係人または受託者における他の投資信託財産との間で、約款に掲げる資産への投資等ならびに約款に掲げる取引その他これらに類する行為を行うことができます。
- (ロ) 受託者は、受託者がこの信託の受託者としての権限に基づいて信託事務の処理として行うことができる取引その他の行為について、受託者または受託者の利害関係人の計算で行うことができるものとします。なお、受託者の利害関係人が当該利害関係人の計算で行う場合も同様とします。
- (ハ) 委託者は、金融商品取引法、投資信託及び投資法人に関する法律ならびに関連法令に反しない場合には、投資信託財産と、委託者、その取締役、執行役および委託者の利害関係人等（金融商品取引法第31条の4第3項および同条第4項に規定する親法人等または子法人等をいいます。）または委託者が運用の指図を行う他の投資信託財産との間で、約款に掲げる資産への投資等ならびに約款に掲げる取引その他これらに類する行為を行うことの指図をすることができ、受託者は、委託者の指図により、当該投資等ならびに当該取引、当該行為を行うことができます。
- (ニ) 上記（イ）（ロ）（ハ）の場合、委託者および受託者は、受益者に対して信託法第31条第3項および同法第32条第3項の通知は行いません。

3【投資リスク】

(1) ファンドのもつリスク

当ファンドは以下の理由により元本が保証されたものではありません。

当ファンドは、主として不動産投資信託ならびに不動産投資法人（以下本項において「不動産投資信託」と総称します。）が発行する証券であるJ-REITに、マザーファンドを通じてまたは直接投資します。J-REITは、次のような不動産投資信託に対する様々な角度からの市場の評価により価格が変動し当ファンドの基準価額と収益分配金に影響を及ぼします。

a. 不動産投資信託の保有不動産への評価

不動産投資信託は、主として保有不動産の賃貸料収入から管理・維持などの費用を差し引いた額が利益となります。これら保有不動産の賃貸料および不動産価格は、景気動向や地域固有の不動産市況などにより変動します。また、個別の不動産については、入居率、テナントとの契約形態、テナントの賃貸料不払いの発生、修繕費などの多寡により収益性がそれぞれ異なり、また状況によって収益性が変化します。以上の様々

な要因が、不動産投資信託の利益、ひいてはＪ－ＲＥＩＴの価格に影響を及ぼし、当ファンドの基準価額を変動させる要因になります。

また、不動産に対する課税や規制が強化された場合には、不動産価格全般が下落することでＪ－ＲＥＩＴの価格も下落することがあります。更には自然災害などによる保有不動産の毀損、滅失や火災などの事故によって、火災保険などの保険契約で支払われる補償上限額を上回る損失が発生した場合には、Ｊ－ＲＥＩＴの価格を下落させる可能性があります。

b．不動産投資信託の配当利回り水準に対する評価

不動産投資信託の利益の減少はＪ－ＲＥＩＴの配当金の減少をもたらす、当ファンドの収益分配金に影響を与える可能性があります。また、Ｊ－ＲＥＩＴの配当金の減少はＪ－ＲＥＩＴの価格をも下落させる要因になります。

不動産投資信託は定期的に賃貸料収入などに基づく比較的安定した配当金を支払いますが、これら配当金の水準が公社債や預貯金などと比較されることで、Ｊ－ＲＥＩＴの相対的な魅力度が変化します。不動産投資信託の配当金の水準に変化がなく、金利だけが上昇するときにはＪ－ＲＥＩＴの相対的な魅力度が減少してＪ－ＲＥＩＴの価格が下落する要因になります。一方で、景気拡大や物価上昇により、賃貸料または不動産価格の上昇が見込めるような状況下での金利上昇局面では、必ずしもＪ－ＲＥＩＴの価格が下落するとは限りません。

c．企業体としての不動産投資信託への評価

不動産投資信託は、投資信託委託会社をはじめとする関係者により運営される企業体と見ることができます。したがって、一般の事業会社と同様に投資や運営の巧拙、財務内容により、Ｊ－ＲＥＩＴの価格も変動することが考えられます。不動産投資信託では資金の借入れや債券の発行により不動産に投資することがあります。この場合、金利が上昇したときには支払金利の増加により利益が減少し、Ｊ－ＲＥＩＴの価格が下落する要因になります。更には投資や運営の失敗、景気変動その他不可抗力による収益および財務内容の悪化、法令・諸規則に違反する運営がなされたことなどにより、不動産投資信託も倒産または上場廃止となる可能性があります。

また、不動産投資信託に対する税制や会計制度などの変更により、Ｊ－ＲＥＩＴの価格が変動することがあります。

また、Ｊ－ＲＥＩＴには次のような有価証券としてのリスクがあり、当ファンドの基準価額と収益分配金に影響を及ぼします。

a．取引所における取引の需給関係による価格変動リスク

一般に有価証券は、新規発行などにより大幅に供給が増加すると取引価格が下落する傾向が見られます。特定の不動産投資信託または複数の不動産投資信託の増資や新規上場などにより、取引所における証券の供給が増加したときは、当該不動産投資信託の個別の証券だけでなく全体的にＪ－ＲＥＩＴの価格が下落することがあります。

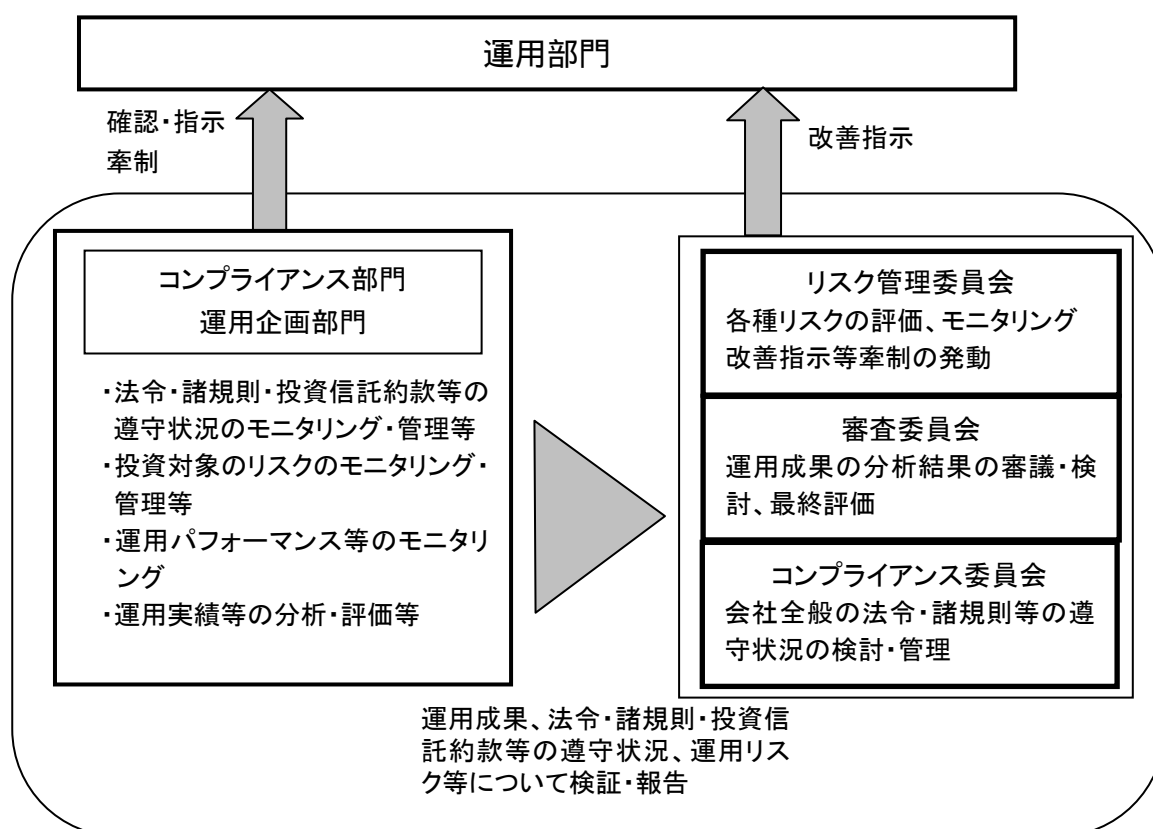
また、株式市場、金融市場の急変、混乱などにより株式や債券が全体的に下落するような局面では、Ｊ－ＲＥＩＴの価格も全体的に下落することがあります。

ｂ．取引所における取引量が減少または無くなることによる流動性リスク

取引所での売買高が少ない場合や、上場廃止などにより取引所で取引ができなくなった場合は、証券を希望する価格で希望する数量を売買できないことがあります。特に流動性が低下したＪ－ＲＥＩＴを売却する場合には、当ファンドの基準価額を下落させる要因になることがあります。

(２) リスク管理体制

- パフォーマンスの分析・管理 : 運用成果を分析し、その結果を審議・検討してその評価を行います。
- 運用リスクの管理 : 投資信託財産の運用リスクの管理およびその管理の現状・適正性を把握し、管理方針を協議、必要に応じ運用部門へ改善指示を行います。



4【手数料等及び税金】

ファンドの取得からご解約・償還までにかかるおもな費用と税金の概要
(詳しくは次の(1)～(5)をご覧ください。)

ファンドの取得時にかかる 費用と税金	● 申込手数料 + 消費税等 申込手数料は販売会社ごとに定めます。
-----------------------	---



ファンドの保有時にかかる 費用と税金	● 信託報酬 + 消費税等 ● 監査報酬 + 消費税等 ● 信託事務の諸費用等 + 消費税等他 ● 証券取引に伴う手数料等 + 消費税等他 上記の費用・税金は投資信託財産中から支払われます。	
	分配金にかかる 税金（注）	普通分配金に対する 所得税・地方税



ファンドの解約・償還時に かかる費用と税金	● 解約・償還時の手数料等はありません。	
	解約代金・ 償還金に かかる税金（注）	譲渡益に対する 所得税・地方税

（注）個人受益者と法人受益者とでは税制が異なります。

平成23年12月31日までの間は、公募株式投資信託の収益分配時・解約時・償還時にかかる税金について、軽減税率が適用されます。

（詳しくは、後述の「（5）【課税上の取扱い】」をご参照ください。）

税法が改正された場合等は、上記の税金にかかる内容が変更される場合があります。

(1) 【申込手数料】

申込手数料は、取得申込受付日の基準価額に、2.1%（税込）を上限として販売会社がそれぞれ独自に定める手数料率を乗じて得た金額となります。当該手数料には消費税等（5%）が含まれます。

手数料について、詳しくは販売会社または新光投信（3頁欄外をご参照ください。）にお問い合わせください。

なお、「分配金再投資コース」で収益分配金を再投資する場合は無手数料です。

当ファンドの受益権の取得申込者が「償還乗り換え」¹または「償還前乗り換え」²により当ファンドの受益権を取得する場合、申込手数料の優遇を受けることができる場合があります。

ただし、上記の申込手数料の優遇に関しては、優遇制度の取り扱い、優遇の内容、優遇を受けるための条件等は販売会社ごとに異なりますので、詳しくは各販売会社でご確認ください。

1「償還乗り換え」とは、取得申込受付日前の一定期間内に既に償還となった証券投資信託の償還金等をもって、その支払いを行った販売会社で当ファンドの受益権を取得する場合をいいます。

2「償還前乗り換え」とは、償還することが決定している証券投資信託の償還日前の一定期間内において、当該証券投資信託の一部解約金をもって、その支払いを行った販売会社で当ファンドの受益権を取得する場合をいいます。

(2) 【換金（解約）手数料】

ご解約時の手数料はありません。

(3) 【信託報酬等】

信託報酬の総額は、当ファンドの計算期間を通じて毎日、投資信託財産の純資産総額に年10,000分の105の率（1.05%）（税込）を乗じて得た額とします。

信託報酬は、毎計算期末または信託終了のとき投資信託財産中から支払うものとし、委託者、販売会社ならびに受託者との間の配分は以下のとおりとします。

	純資産総額	委託者 （税込）	販売会社 （税込）	受託者 （税込）
信託報酬の配分 （純資産総額に 対する年率）	100億円未満の部分に対して	0.5775%	0.4200%	0.0525%
	100億円以上300億円未満の部分 に対して	0.5250%	0.4725%	0.0525%
	300億円以上500億円未満の部分 に対して	0.4725%	0.5250%	0.0525%
	500億円以上の部分に対して	0.4200%	0.5775%	0.0525%

委託者の信託報酬には、投資顧問会社に対する投資顧問報酬（純資産総額に対し年10,000分の15.75の率（0.1575%）（税込））が含まれています。

(4) 【その他の手数料等】

- a．投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、投資信託財産にかかる監査報酬、当該監査報酬にかかる消費税等に相当する金額および受託者の立て替えた立替金の利息（以下「諸経費」といいます。）は、受益者の負担とし、投資信託財産中から支払われます。
- b．投資信託財産にかかる監査報酬は、毎計算期末または信託終了のときに、当該監査報酬にかかる消費税等とともに投資信託財産中から支払われます。
- c．証券取引に伴う手数料・税金等、当ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料は、投資信託財産が負担します。この他に、売買委託手数料にかかる消費税等および外国での資産の保管等に要する費用についても投資信託財産が負担します。

(5) 【課税上の取扱い】**a．個人の受益者の場合****(イ) 収益分配金の取り扱い**

収益分配金のうち課税対象となる普通分配金については、配当所得として課税され、平成23年12月31日までは10%（所得税7%および地方税3%）の税率で源泉徴収されます。なお、特別分配金は課税されません。確定申告を行い、総合課税・申告分離課税のいずれかを選択することもできます。また、特定口座（源泉徴収あり）の利用も可能です。

(ロ) 一部解約金・償還金の取り扱い

一部解約時および償還時の譲渡益（解約価額または償還価額から取得費（申込手数料（税込）を含みます。）を控除した額）については、譲渡所得とみなされ、平成23年12月31日までは10%（所得税7%および地方税3%）の税率による申告分離課税が適用されます。なお、特定口座（源泉徴収あり）においては、10%（所得税7%および地方税3%）の税率で源泉徴収されます。

上記（イ）および（ロ）の10%（所得税7%および地方税3%）の税率は、平成24年1月1日より、20%（所得税15%および地方税5%）となる予定です。

(ハ) 損益通算について

一部解約時、償還時に生じた損失（譲渡損）は、確定申告を行うことにより上場株式等の譲渡益および上場株式等の配当所得の金額（申告分離課税を選択したものに限り）から差し引くこと（損益通算）ならびに3年間の繰越控除の対象とすることができます。一部解約時、償還時に生じた差益（譲渡益）は、上場株式等の譲渡損と損益通算ができます。

また、特定口座（源泉徴収あり）をご利用の場合、その口座内において損益通算を行うことが可能です（申告不要）。

詳しくは販売会社にお問い合わせください。

b．法人の受益者の場合

平成23年12月31日までの間は、収益分配金のうち課税対象となる普通分配金および一部解約金・償還金の個別元本超過額については、7%（所得税のみ）の税率で源泉徴収されます。なお、特別分配金は課税されません。

また、上記の税率は平成24年1月1日より、15%（所得税のみ）となる予定です。
源泉徴収された所得税は、所有期間に応じて法人税から控除される場合があります。
なお、益金不算入制度は適用されません。

c．個別元本について

- (イ) 追加型株式投資信託について、受益者ごとの信託時の受益権の価額等（申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等相当額は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあたります。
- (ロ) 受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。
- (ハ) 受益者が同一ファンドの受益権を複数の販売会社で取得する場合については販売会社ごとに、個別元本の算出が行われます。また、同一販売会社であっても複数支店等で同一ファンドの受益権を取得する場合は当該支店等ごとに、「分配金受取コース」と「分配金再投資コース」の両コースで取得する場合はコース別に、個別元本の算出が行われる場合があります。
- (ニ) 受益者が特別分配金を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該特別分配金を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。（「特別分配金」については、「d．収益分配金の課税について」をご参照ください。）

d．収益分配金の課税について

追加型株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「特別分配金」（受益者ごとの元本の一部払い戻しに相当する部分）の区分があります。

受益者が収益分配金を受け取る際、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が特別分配金となり、当該収益分配金から当該特別分配金を控除した額が普通分配金となります。

なお、受益者が特別分配金を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該特別分配金を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

ただし、課税対象となります分配金は普通分配金のみであり、特別分配金に関しましては非課税扱いとなります。

税法が改正された場合等は、上記「（５）【課税上の取扱い】」の内容が変更される場合があります。

5【運用状況】

当ファンドは平成22年6月24日運用開始であるため、当ファンドの有価証券届出書提出日現在、記載すべき事項はありません。

6【手続等の概要】

(1) 申込（販売）手続等

(イ) 取得申込者は、「分配金受取コース」および「分配金再投資コース」について、販売会社ごとに定める申込単位で、取得申込受付日の基準価額で購入することができます。ただし、「分配金再投資コース」で収益分配金を再投資する場合は1口単位となります。

取得申込者は、販売会社取引口座を開設のうえ、申込金額に手数料および当該手数料にかかる消費税等を加算した金額を販売会社が指定する期日までに支払うものとします。(手数料については前述の「第二部 【ファンド情報】 第1 【ファンドの状況】 4【手数料等及び税金】 (1)【申込手数料】」をご参照ください。)

(ロ) 「分配金再投資コース」での取得申込者は、販売会社との間で「りそな」リート・アクティブ・オープン自動継続投資約款(別の名称で同様の権利義務を規定する約款を含みます。)にしたがって契約(以下「別に定める契約」といいます。)を締結します。

(ハ) 取得申し込みの受付は、原則として営業日の午後3時までとし、当該受付時間を過ぎた場合の申込受付日は翌営業日となります。ただし、受付時間は販売会社によって異なる場合があります。

(2) 換金（解約）手続等

一部解約（解約請求によるご解約）

(イ) 受益者は、「分配金受取コース」および「分配金再投資コース」の両コースとも、販売会社が定める単位をもって一部解約の実行を請求することができます。

なお、受付は原則として営業日の午後3時までとし、当該受付時間を過ぎた場合の申込受付日は翌営業日となります。ただし、受付時間は販売会社によって異なる場合があります。

また、投資信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の解約請求に制限を設ける場合があります。

(ロ) 受益者が一部解約の実行の請求をするときは、販売会社に対し、振替受益権をもって行うものとします。

(ハ) 委託者は、一部解約の実行の請求を受け付けた場合には、この投資信託契約の一部を解約します。また、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

(ニ) 一部解約の価額は、一部解約の実行の請求受付日の基準価額とします。

一部解約に関して課税対象者にかかる所得税および地方税(法人の受益者の場合は所得税のみ)に相当する金額が控除されます。

なお、一部解約の価額は、毎営業日に算出されますので、販売会社または新光投信(3頁欄外をご参照ください。)にお問い合わせください。

基準価額につきましては、新光投信株式会社のインターネットホームページ(<http://www.shinkotoushin.co.jp/>)または、原則として計算日の翌日付の日本経済新聞朝刊に掲載されます。また、お問い合わせいただけます基準価額および一部解約の価額は、前日以前のものとなります。

- (ホ) 一部解約金は、受益者の請求を受け付けた日から起算して、原則として、5営業日目から販売会社において受益者に支払われます。
- (ヘ) 委託者は、取引所における取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、一部解約の実行の請求の受付を中止することおよびすでに受け付けた一部解約の実行の請求の受付を取り消すことができます。
- (ト) 上記(ヘ)により一部解約の実行の請求の受付が中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、一部解約の価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受け付けたものとして、上記(二)の規定に準じて計算された価額とします。

7【管理及び運営の概要】

(1) 資産の評価

基準価額とは、投資信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券および借入有価証券を除きます。）を法令および社団法人投資信託協会規則にしたがって時価評価して得た投資信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（以下「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権口数で除した金額をいいます。

基準価額は、毎営業日に算出されますので、販売会社または新光投信（3頁欄外をご参照ください。）にお問い合わせください。

基準価額は、原則として計算日の翌日付の日本経済新聞朝刊に掲載されます。

また、お問い合わせいただけます基準価額は、前日以前のものとなります。

当ファンドの主な投資対象の評価方法は以下のとおりです。

投資対象	評価方法
親投資信託 受益証券	原則として、基準価額計算日の基準価額で評価
J - R E I T (不動産投資信託証券)	原則として、基準価額計算日の取引所の最終相場で評価

(2) 信託期間

当ファンドの信託期間は、投資信託契約締結日から平成32年6月22日までです。

委託者は、信託期間満了前に、信託期間の延長が受益者に有利であると認めたときは、受託者と協議のうえ、信託期間を延長することができます。

(3) 計算期間

当ファンドの計算期間は、原則として毎月23日から翌月22日までとします。ただし、第1計算期間は平成22年6月24日から平成22年7月22日までとします。

上記にかかわらず、上記の原則により各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日のとき、各計算期間終了日は該当日以降の営業日で該当日に最も近い日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日は、投資信託約款に定める信託期間の終了日とします。

(4) その他

a. 信託の終了（投資信託契約の解約）

(イ) 委託者は、投資信託契約の一部を解約することにより、受益権の総口数が10億口を下回ることとなった場合、またはこの投資信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、もしくはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この投資信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託者は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

(ロ) 委託者は、上記(イ)の事項について、下記「c. 書面決議の手続き」の規定にしたがいます。

(ハ) 委託者は、監督官庁よりこの投資信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、投資信託契約を解約し信託を終了させます。

(ニ) 委託者が監督官庁より登録の取り消しを受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託者は、この投資信託契約を解約し、信託を終了させます。

上記の規定にかかわらず、監督官庁がこの投資信託契約に関する委託者の業務を他の委託者に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、下記「c. 書面決議の手続き」の規定における書面決議が否決となる場合を除き、当該委託者と受託者との間において存続します。

(ホ) 受託者は、委託者の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託者がその任務に違反して投資信託財産に著しい損害を与えたことその他重要な事由があるときは、委託者または受益者は、裁判所に受託者の解任を申し立てることができます。受託者が辞任した場合、または裁判所が受託者を解任した場合、委託者は、下記「b. 投資信託約款の変更等」の規定にしたがい、新受託者を選任します。なお、受益者は、上記によって行う場合を除き、受託者を解任することはできないものとします。

委託者が新受託者を選任できないときは、委託者はこの投資信託契約を解約し、信託を終了させます。

b. 投資信託約款の変更等

(イ) 委託者は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この投資信託約款を変更することまたはこの信託と他の信託との併合（投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。以下同じ。）を行うことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。

(ロ) 委託者は、上記(イ)の事項（投資信託約款の変更事項にあっては、その内容が重大なものに該当する場合に限ります。以下、併合と合わせて「重大な約款の変更等」といいます。）について、下記「c. 書面決議の手続き」の規定にしたがいます。

(ハ) 委託者は、監督官庁の命令に基づいてこの投資信託約款を変更しようとするときは、上記(イ)および(ロ)の規定にしたがいます。

この投資信託約款は上記に定める以外の方法によって変更することができないものとします。

c．書面決議の手続き

(イ) 委託者は、上記「a．信託の終了（投資信託契約の解約）」(イ)について、または「b．投資信託約款の変更等」(イ)の事項のうち重大な約款の変更等について、書面による決議（以下「書面決議」といいます。）を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに投資信託契約の解約の理由または重大な約款の変更等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、当ファンドにかかる知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を発します。

(ロ) 上記(イ)の書面決議において、受益者（委託者およびこの信託の投資信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託者を除きます。以下本項において同じ。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。

(ハ) 上記(イ)の書面決議は議決権を行行使することができる受益者の半数以上であって、当該受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。

(ニ) 重大な約款の変更等における書面決議の効力は、当ファンドのすべての受益者に対してその効力を生じます。

(ホ) 上記(イ)から(ニ)までの規定は、委託者が投資信託契約の解約または重大な約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、当ファンドにかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。また、投資信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、上記(イ)から(ハ)までに規定する当ファンドの解約の手続きを行うことが困難な場合には適用しません。

(ヘ) 上記(イ)から(ホ)の規定にかかわらず、当ファンドにおいて併合の書面決議が可決された場合にあっては、当該併合にかかる一または複数の他の投資信託において当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他の投資信託との併合を行うことはできません。

d．反対者の買取請求権

投資信託契約の解約または上記「b．投資信託約款の変更等」における重大な約款の変更等を行う場合において、書面決議において当該解約または重大な約款の変更等に反対した受益者は、受託者に対し、自己に帰属する受益権を、投資信託財産をもって買い取るべき旨を請求することができます。

上記の買取請求の内容および買取請求の手続きに関する事項は、上記「c．書面決議の手続き」で規定する書面に記載します。

e．運用報告書

当ファンドについて、委託者は原則として6ヵ月ごと（原則として6月、12月の各特定期間の終了時）および償還時に、期中の運用経過のほか、投資信託財産の内容、有価証券売買状況などを記載した運用報告書を作成します。

運用報告書は、あらかじめ受益者が申し出た住所に販売会社から届けられます。また、販売会社で、受け取ることができます。

f. 公告

委託者が受益者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。

第2 【財務ハイライト情報】

当ファンドは平成22年6月24日運用開始であるため、当ファンドの有価証券届出書提出日現在、記載すべき事項はありません。

第3 【内国投資信託受益証券事務の概要】

委託者は、このファンドの受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

(1) 投資信託受益証券の名義書換等

受益者は、委託者がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

(2) 受益者等名簿

該当事項はありません。

(3) 受益者等に対する特典

該当事項はありません。

(4) 受益権の譲渡

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等に振り替えの申請をするものとします。

上記の申請のある場合には、上記の振替機関等は、当該譲渡にかかる譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

上記の振り替えについて、委託者は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託者が必要と認めたときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

(5) 受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託者および受託者に対抗することができません。

(6) 受益権の再分割

委託者は、受託者と協議のうえ、社振法に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

(7) 償還金

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。）に支払います。

(8) 質権口記載または記録の受益権の取り扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付、一部解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

第4 【ファンドの詳細情報の項目】

当ファンドの有価証券届出書「第三部 ファンドの詳細情報」の記載項目は下記のとおりです。

第1 ファンドの沿革

第2 手続等

1 申込（販売）手続等

2 換金（解約）手続等

第3 管理及び運営

1 資産管理等の概要

(1) 資産の評価

(2) 保管

(3) 信託期間

(4) 計算期間

(5) その他

2 受益者の権利等

第4 ファンドの経理状況

第5 設定及び解約の実績

約 款

追加型証券投資信託 [リソナ]リート・アクティブ・オープン]約 款 運用の基本方針

約款第19条の規定に基づき、委託者の定める運用の基本方針は、次のとおりとします。

1. 基本方針

この投資信託は、新光J - R E I Tアクティブ・マザーファンド受益証券を主要投資対象として、配当等収益の確保と投資信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。

2. 運用方法

(1) 投資対象

新光J - R E I Tアクティブ・マザーファンド受益証券（以下「マザーファンド」といいます。）を主要投資対象とします。なお、わが国の取引所に上場（上場予定を含みます。）している不動産投資信託受益証券および不動産投資法人投資証券（以下総称して「不動産投資信託証券」といいます。）に直接投資する場合があります。

(2) 投資態度

主として、マザーファンドに投資することにより、わが国の取引所に上場（上場予定を含みます。）している不動産投資信託証券に実質的に投資を行い、配当等収益の確保と投資信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。

不動産投資信託証券の実質組入比率は、原則として高位とすることを基本とします。

設定当初等で投資信託財産が小規模である場合、市況の急激な変化が予想される場合、また、やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用を行わない場合があります。

(3) 投資制限

不動産投資信託証券への実質的な投資割合には制限を設けません。

同一銘柄の不動産投資信託証券への実質的な投資割合は、取得時において投資信託財産の純資産総額の20%以下とします。

不動産投資信託証券および短期金融商品（短期運用の有価証券を含みます。）以外には実質的に投資を行いません。

外貨建資産への直接投資は行いません。

3. 収益分配方針

毎決算時に、原則として以下の方針に基づき収益の分配を行います。

(1) 分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。

(2) 分配金額は、経費控除後の利子・配当等収益を中心に安定した分配を行うことを目標に委託者が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。また、第1期および第2期決算時は、原則として分配を行いません。

(3) 前項にかかわらず、前項にかかる分配金額のほか、分配対象額の範囲内で基準価額水準や市況動向等を勘案して委託者が決定する額を付加して分配する場合があります。

(4) 留保益の運用については、特に制限を設けず、運用の基本方針に基づいた運用を行います。

追加型証券投資信託 [リソナ]リート・アクティブ・オープン]約 款

【信託の種類、委託者および受託者】

第1条 この信託は、証券投資信託であり、新光投信株式会社を委託者とし、株式会社りそな銀行を受託者とします。

この信託は、信託法（平成18年法律第108号）（以下「信託法」といいます。）の適用を受けません。

【信託事務の委託】

第2条 受託者は、信託法第28条第1号に基づく信託事務の委託として、信託事務の処理の一部について、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律第1条第1項の規定による信託業務の兼営の認可を受けた一の金融機関（受託者の利害関係人（金融機関の信託業務の兼営等に関する法律第2条第1項にて準用する信託業法第29条第2項第1号に規定する利害関係人をいいます。以下同じ。）を含みます。）と信託契約を締結し、これを委託することができます。

前項における利害関係人に対する業務の委託については、受益者の保護に支障を生じることがない場合に行うものとします。

【信託の目的および金額】

第3条 委託者は、金20,000,000円を受益者のために利殖の目的をもって信託し、受託者はこれを引き受けます。

【信託金の限度額】

第4条 委託者は、受託者と合意のうえ、金1,000億円を限度として信託金を追加することができます。

委託者は、受託者と合意のうえ、前項の限度額を変更することができます。

【信託期間】

第5条 この信託の期間は、投資信託契約締結日から平成32年6月22日までとします。

【受益権の取得申込みの勧誘の種類】

第6条 この信託にかかる受益権の取得申込みの勧誘は、金融商品取引法第2条第3項第1号に掲げる場合に該当し、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第8項で定める公募により行われます。

【当初の受益者】

第7条 この投資信託契約締結当初および追加信託当初の受益者は、委託者の指定する受益権取得申込者とし、第8条により分割された受益権は、その取得申込口数に応じて、取得申込者に帰属します。

【受益権の分割および再分割】

第8条 委託者は、第3条の規定による受益権については20,000,000口に、追加信託によって生じた受益権については、これを追加信託のつど第9条第1項の追加口数に、それぞれ均等に分割します。

委託者は、受託者と協議のうえ、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

【追加信託の価額および口数、基準価額の計算方法】

第9条 追加信託金は、追加信託を行う日の前営業日の基準価額に当該追加信託にかかる受益権の口数を乗じた額とします。

この約款において基準価額とは、投資信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券および第22条に規定する借入有価証券を除きます。）を法令および社団法人投資信託協会規則に従って時価評価して得た投資信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（以下「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権口数で除した金額をいいます。

【信託日時の異なる受益権の内容】

第10条 この信託の受益権は、信託の日時を異にすることにより差異を生ずることはありません。

【受益権の帰属と受益証券の不発行】

第11条 この信託の全ての受益権は、社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます。）の規定の適用を受けることとし、受益権の帰属は、委託者があらかじめこの信託の受益権を取り扱うことについて同意した一の振替機関（社振法第2条に規定する「振替機関」をいい、以下「振替機関」といいます。）および当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。

委託者は、この信託の受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、振替受益権を表示する受益証券を発行しません。なお、受益者は、委託者がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

委託者は、第8条の規定により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。振替機関等は、委託者から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。

【受益権の設定にかかる受託者の通知】

第12条 受託者は、投資信託契約締結日に生じた受益権については投資信託契約締結時に、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権にかかる信託を設定した旨の通知を行います。

【受益権の申込単位および価額】

第13条 委託者は、第8条第1項の規定により分割される受益権を、その取得申込者に対し、委託者が定め

る申込単位をもって取得申込に応ずることができるものとします。なお、この場合においては、第37条第3項に規定する収益分配金の再投資にかかる受益権の取得申込を申し出た取得申込者に対しては、1口の整数倍をもって取得申込に応ずることができるものとします。ただし、受益権の取得申込者がその申込みをしようとする場合において、委託者に対し、当該取得申込にかかる受益権について、第37条第3項に規定する収益分配金の再投資にかかる受益権の取得申込をしないことを申し出たときは、委託者が定める申込単位をもって取得申込に応ずるものとします。

指定販売会社（委託者の指定する金融商品取引法第28条第1項に規定する第一種金融商品取引業を行う者および委託者の指定する金融商品取引法第2条第11項に規定する登録金融機関をいいます。以下同じ。）は、第8条第1項の規定により分割される受益権を、その取得申込者に対し、指定販売会社が定める申込単位をもって取得申込に応じることができます。ただし、指定販売会社と別に定めるりそなリート・アクティブ・オープン自動継続投資約款（別の名称で同様の権利義務を規定する約款を含みます。）にしたがって契約（以下「別に定める契約」といいます。）を結んだ取得申込者には、1口の整数倍をもって取得申込に応じることができるものとします。

前各項の規定にかかわらず、取引所（金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号ロに定める外国金融市場をいいます。以下同じ。）における取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、委託者の判断により、受益権の取得の申込みの受付けを中止することおよび既に受付けた取得申込の受付けを取消すことができます。ただし、別に定める契約または第37条第3項の規定に基づく収益分配金の再投資にかかる追加信託金の申込みに限ってこれを受付けるものとします。

第1項および第2項の受益権の価額は、取得申込受付日の基準価額に、手数料および当該手数料にかかる消費税および地方消費税（以下「消費税等」といいます。）に相当する金額を加算した価額とします。ただし、この投資信託契約締結日前の取得申込にかかる価額は、1口につき1円に、手数料および当該手数料にかかる消費税等に相当する金額を加算した価額とします。

前項の手数料の額（その減免を含む）は、委託者または指定販売会社がそれぞれ独自に定めます。

前2項の規定にかかわらず、別に定める契約または第37条第3項の規定に基づいて収益分配金を再投資する場合の受益権の価額は、原則として第31条に規定する各計算期間終了日の基準価額とします。

第1項および第2項の取得申込者は委託者、指定販売会社に、取得申込と同時にまたは予め、自己のために開設されたこの信託の受益権の振替を行うための振替機関等の口座を示すものとし、当該

口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録が行われます。なお、委託者（第38条の委託者の指定する口座管理機関を含みます。）、指定販売会社は、当該取得申込の代金（第4項ならびに第6項の受益権の価額に当該取得申込の口数を乗じて得た額をいいます。）の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録を行うことができます。

【受益権の譲渡にかかる記載または記録】

第14条 受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等に振替の申請をするものとします。

前項の申請のある場合には、前項の振替機関等は、当該譲渡にかかる譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、前項の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

委託者は、第1項に規定する振替について、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託者が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

【受益権の譲渡の対抗要件】

第15条 受益権の譲渡は、前条の規定による振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託者および受託者に対抗することができません。

【投資の対象とする資産の種類】

第16条 この信託において投資の対象とする資産（本邦通貨表示のものに限ります。）の種類は、次に掲げるものとします。

1. 次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。）

イ．有価証券

ロ．デリバティブ取引に係る権利（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、約款第21条に定めるものに限ります。）

ハ．金銭債権

ニ．約束手形

2. 次に掲げる特定資産以外の資産

イ．為替手形

【有価証券および金融商品の指図範囲等】

第17条 委託者は、信託金を、主として新光投信株式会社を委託者とし、株式会社りそな銀行を受託者として締結された新光J・REITアクティブ・マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）の受益証券ならびに次に掲げる有価証券

(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。有価証券は本邦通貨表示のものに限ります。)に投資することを指図します。

1. コマーシャル・ペーパー
2. 外国または外国の者の発行する証券または証券書で、前号の証券の性質を有するもの
3. 投資信託または外国投資信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。)
4. 投資証券または外国投資証券(金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。)
5. 国債証券、地方債証券、特別の法律により法人の発行する債券および社債券(新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券を除きます。)
6. 指定金銭信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。)

なお、第3号の証券および第4号の証券を以下「投資信託証券」といい、第5号の証券を以下「公社債」といいます。公社債にかかる運用の指図は短期社債等への投資ならびに買い現先取引(売戻し条件付の買入れ)および債券貸借取引(現金担保付き債券借入れ)に限り行うことができます。

委託者は、信託金を、前項に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。)により運用することを指図することができます。

1. 預金
2. 指定金銭信託(金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。)
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形

第1項の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託者が運用上必要と認めるときには、委託者は、信託金を、前項に掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

【利害関係人等との取引等】

第18条 受託者は、受益者の保護に支障を生じることがないものであり、かつ信託業法、投資信託及び投資法人に関する法律ならびに関連法令に反しない場合には、委託者の指図により、投資信託財産と、受託者(第三者との間において投資信託財産のためにする取引その他の行為であって、受託者が当該第三者の代理人となって行うものを含みます。)および受託者の利害関係人、第23条第1項に定める信託業務の委託先およびその利害関係人または受託者における他の投資信託財産との間で、第16条および第17条第1項および第2項に掲げる資産への投資等ならびに第21条、第22条、第26条から第28条に掲げる取引その他これらに類する行為を行うことができます。

受託者は、受託者がこの信託の受託者としての権限に基づいて信託事務の処理として行うことができる取引その他の行為について、受託者または受託者の利害関係人の計算で行うことができるものとします。なお、受託者の利害関係人が当該利害関係人の計算で行う場合も同様とします。

委託者は、金融商品取引法、投資信託及び投資法人に関する法律ならびに関連法令に反しない場合には、投資信託財産と、委託者、その取締役、執行役および委託者の利害関係人等(金融商品取引法第31条の4第3項および同条第4項に規定する親法人等または子法人等をいいます。)または委託者が運用の指図を行う他の投資信託財産との間で、第16条および第17条第1項および第2項に掲げる資産への投資等ならびに第21条、第22条、第26条から第28条に掲げる取引その他これらに類する行為を行うことの指図をすることができ、受託者は、委託者の指図により、当該投資等ならびに当該取引、当該行為を行うことができます。

前3項の場合、委託者および受託者は、受益者に対して信託法第31条第3項および同法第32条第3項の通知は行いません。

【運用の基本方針】

第19条 委託者は、投資信託財産の運用にあたっては、別に定める運用の基本方針にしたがって、その指図を行います。

【同一銘柄の不動産投資信託証券への投資制限】

第20条 委託者は、取得時において投資信託財産に属する同一銘柄の不動産投資信託の受益証券および不動産投資法人の投資証券(以下総称して「不動産投資信託証券」といいます。)の時価総額とマザーファンドの投資信託財産に属する当該不動産投資信託証券の時価総額のうち投資信託財産に属するとみなした額との合計額が、投資信託財産の純資産総額の100分の20を超えることとなる投資の指図をしません。

前項において投資信託財産に属するとみなした額とは、投資信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの投資信託財産の純資産総額に占める当該資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。

【先物取引等の運用指図】

第21条 委託者は、わが国の取引所における有価証券指数等先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号口に掲げるものをいいます。)のうちわが国の不動産投信指数を対象とする先物取引(以下「不動産投信指数先物取引」といいます。)ならびに外国の取引所におけるこの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。

【公社債の借入れ】

第22条 委託者は、投資信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れの指図をすることができます。なお、当該公社債の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認めるときは、担保の提供の指図を行うものとします。

前項の指図は、当該借入れにかかる公社債の時価総額が投資信託財産の純資産総額の範囲内とし

ます。

投資信託財産の一部解約等の事由により、前項の借入れにかかる公社債の時価総額が投資信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者はすみやかに、その超える額に相当する借入れた公社債の一部を返還するための指図をするものとします。

第1項の借入れにかかる品借料は投資信託財産中から支弁します。

【信託業務の委託等】

第23条 受託者は、委託者と協議のうえ、信託業務の一部について、信託業法第22条第1項に定める信託業務の委託をするときは、以下に掲げる基準のすべてに適合するもの（受託者の利害関係人を含みます。）を委託先として選定します。

1. 委託先の信用力に照らし、継続的に委託業務の遂行に懸念がないこと
2. 委託先の委託業務にかかる実績等に照らし、委託業務を確実に処理する能力があると認められること
3. 委託される投資信託財産に属する財産と自己の固有財産その他の財産とを区分する等の管理を行う体制が整備されていること
4. 内部管理に関する業務を適正に遂行するための体制が整備されていること

受託者は、前項に定める委託先の選定にあたっては、当該委託先が前項各号に掲げる基準に適合していることを確認するものとします。

前2項にかかわらず、受託者は、次の各号に掲げる業務を、受託者および委託者が適当と認める者（受託者の利害関係人を含みます。）に委託することができるものとします。

1. 投資信託財産の保存にかかる業務
2. 投資信託財産の性質を変えない範囲内において、その利用または改良を目的とする業務
3. 委託者のみの指図により投資信託財産の処分およびその他の信託の目的の達成のために必要な行為にかかる業務
4. 受託者が行う業務の遂行にとって補助的な機能を有する行為

【混蔵寄託】

第24条 金融機関または金融商品取引業者（金融商品取引法第2条第9項に規定する者をいいます。本条においては、外国の法令に準拠して設立された法人でこの者に類する者を含みます。）から、売買代金および償還金等について円貨で約定し円貨で決済する取引により取得した外国において発行されたコマーシャル・ペーパーは、当該金融機関または金融商品取引業者が保管契約を締結した保管機関に当該金融機関または金融商品取引業者の名義で混蔵寄託できるものとします。

【投資信託財産の登記等および記載等の留保等】

第25条 信託の登記または登録をすることができる投資信託財産については、信託の登記または登録をすることとします。ただし、受託者が認める場合は、信託の登記または登録を留保することがあります。

前項ただし書きにかかわらず、受益者保護のため

めに委託者または受託者が必要と認めるときは、速やかに登記または登録をするものとします。

投資信託財産に属する旨の記載または記録をすることができる投資信託財産については、投資信託財産に属する旨の記載または記録をするとともに、その計算を明らかにする方法により分別して管理するものとします。ただし、受託者が認める場合は、その計算を明らかにする方法により分別して管理することがあります。

動産（金銭を除きます。）については、外形上区別することができる方法によるほか、その計算を明らかにする方法により分別して管理することがあります。

【一部解約の請求および有価証券の売却等の指図】

第26条 委託者は、投資信託財産に属するマザーファンドの受益証券にかかる投資信託契約の一部解約の請求および有価証券の売却等の指図ができます。

【再投資の指図】

第27条 委託者は、前条の規定による一部解約の代金、売却代金、有価証券にかかる償還金等、有価証券等にかかる利子等およびその他の収入金を再投資することの指図ができます。

【資金の借入れ】

第28条 委託者は、投資信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。

一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から投資信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から投資信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から投資信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および償還金の合計額を限度とします。ただし、資金の借入額は、借入指図を行う日における投資信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。

収益分配金の再投資にかかる借入期間は投資信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。

借入金の利息は投資信託財産中より支弁します。

【損益の帰属】

第29条 委託者の指図に基づく行為により投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。

【受託者による資金の立替え】

第30条 投資信託財産に属する有価証券について、借替がある場合で、委託者の申出があるときは、受託

者は、資金の立替えをすることができます。

投資信託財産に属する有価証券にかかる償還金等、有価証券等にかかる利子等およびその他の未収入金で、信託終了日までにその金額を見積りうるものがあるときは、受託者がこれを立替えて投資信託財産に繰り入れることができます。

前2項の立替金の決済および利息については、受託者と委託者との協議によりそのつど別にこれを定めます。

【信託の計算期間】

第31条 この信託の計算期間は、原則として毎月23日から翌月22日までとします。ただし、第1計算期間は平成22年6月24日から平成22年7月22日までとします。

前項にかかわらず、前項の原則により各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日のとき、各計算期間終了日は該当日以降の営業日で該当日に最も近い日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日は、第5条に定める信託期間の終了日とします。

【投資信託財産に関する報告等】

第32条 受託者は、毎計算期末に損益計算を行い、投資信託財産に関する報告書を作成して、これを委託者に提出します。

受託者は、信託終了のときに最終計算を行い、投資信託財産に関する報告書を作成して、これを委託者に提出します。

受託者は、前2項の報告を行うことにより、受益者に対する信託法第37条第3項に定める報告は行わないこととします。

受益者は、受託者に対し、信託法第37条第2項に定める書類または電磁的記録の作成に欠くことのできない情報その他の信託に関する重要な情報および当該受益者以外の者の利益を害するおそれのない情報を除き、信託法第38条第1項に定める閲覧または謄写の請求をすることはできないものとします。

【信託事務の諸費用および監査報酬】

第33条 投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、投資信託財産にかかる監査報酬、当該監査報酬にかかる消費税等に相当する金額および受託者の立替えた立替金の利息（以下「諸経費」といいます。）は、受益者の負担とし、投資信託財産中から支弁します。

前項の投資信託財産にかかる監査報酬は、毎計算期末または信託終了のときに、当該監査報酬にかかる消費税等相当額とともに投資信託財産中から支弁します。

【信託報酬等の額および支弁の方法】

第34条 委託者および受託者の信託報酬の総額は、第31条に規定する計算期間を通じて毎日、投資信託財産の純資産総額に年10,000分の100の率を乗じて得た額とします。

前項の信託報酬は、毎計算期末または信託終了のとき投資信託財産中から支弁するものとし、委託者と受託者との間の配分は別に定めます。

第1項の信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を、信託報酬支弁のときに投資信託財産中から支弁します。

【収益の分配方式】

第35条 投資信託財産から生ずる毎計算期末における利益は、次の方法により処理します。

1. 分配金、配当金、利子およびこれらに類する収益から支払利息を控除した額（以下「配当等収益」といいます。）は、諸経費、信託報酬および当該信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を控除した後、その残金を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配金にあてため、その一部を分配準備積立金として積み立てることができます。

2. 売買損益に評価損益を加減した利益金額（以下「売買益」といいます。）は、諸経費、信託報酬および当該信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を控除し、繰越欠損金のあるときは、その全額を売買益をもって補てんした後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてため、分配準備積立金として積み立てることができます。

毎計算期末において、投資信託財産につき生じた損失は、次期に繰り越します。

【収益分配金、償還金および一部解約金の払い込みと支払いに関する受託者の免責】

第36条 受託者は、収益分配金については毎計算期間終了日の翌営業日までに、償還金（信託終了時における投資信託財産の純資産総額を受益権口数で除した額をいいます。以下同じ。）については第37条第5項に規定する支払開始日までに、一部解約金については第37条第6項に規定する支払日までに、その全額を委託者の指定する預金口座等に払い込みます。

受託者は、前項の規定により委託者の指定する預金口座等に収益分配金、償還金および一部解約金を払い込んだ後は、受益者に対する支払いにつき、その責に任じません。

【収益分配金、償還金および一部解約金の支払い】

第37条 収益分配金は、毎計算期間終了日後1ヵ月以内の委託者の指定する日から、毎計算期間の末日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため委託者、指定販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者となります。）に支払います。

前項の規定にかかわらず、別に定める契約に基づいて収益分配金を再投資する受益者に対しては、受託者が委託者の指定する預金口座等に払い込むことにより、原則として、毎計算期間終了日の翌営業日に収益分配金が指定販売会社に交付されます。この場合、指定販売会社は、受益者に対し遅滞なく収益分配金の再投資にかかる受益権の売付

けを行います。当該売付けにより増加した受益権は、第11条第3項の規定にしたがい、振替口座簿に記載または記録されます。

委託者は、第1項の規定にかかわらず、委託者の自らの募集に応じた受益者にかかる受益権に帰属する収益分配金（受益者が自己に帰属する受益権の全部もしくは一部について、委託者に対し、この信託の収益分配金の再投資にかかる受益権の取得申込をしないことをあらかじめ申し出た場合において、委託者が当該申し出を受付けた受益権に帰属する収益分配金を除きます。）をこの信託の受益権の取得申込金として、各受益者ごとに当該収益分配金の再投資にかかる受益権の取得申込に応じたものとします。当該受益権の取得申込に応じたことにより増加した受益権は、第11条第3項の規定にしたがい、振替口座簿に記載または記録されます。

委託者は、第3項の受益者がその有する受益権の全部の口数について第40条第2項により信託の一部解約が行われた場合に、当該受益権に帰属する収益分配金があるときは、第3項の規定にかかわらず、その都度受益者に支払います。

償還金は、信託終了日後1ヵ月以内の委託者の指定する日から、信託終了日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（信託終了日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該信託終了日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため委託者、指定販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として支払います。）に支払います。なお、当該受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して委託者がこの信託の償還をするのと引き換えに、当該償還にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

一部解約金は、第40条第1項の受益者の請求を受付けた日から起算して、原則として、5営業日目から当該受益者に支払います。

前各項（第2項および第3項を除きます。）に規定する収益分配金、償還金および一部解約金の支払いは、指定販売会社の営業所等において行うものとします。ただし、委託者の自らの募集にかかる受益権に帰属する収益分配金、償還金および一部解約金の支払いは、委託者において行います。

収益分配金、償還金および一部解約金にかかる収益調整金（所得税法施行令第27条の規定によるものとし、各受益者毎の信託時の受益権の価額と元本との差額をいい、原則として、追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとします。）は、原則として、各受益者毎の信託時の受益権の価額等（原則として、各受益者毎の信託時の受益権の価額をいい、追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとします。）に応じて計

算されるものとします。

【委託者自らの募集にかかる受益権の口座管理機関】

第38条 委託者は、委託者の自らの募集にかかる受益権について、口座管理機関を指定し、振替口座簿への記載または登録等に関する業務を委任することができます。

【収益分配金および償還金の時効】

第39条 受益者が、収益分配金については、第37条第1項に規定する支払開始日から5年間その支払いを請求しないとき、ならびに信託終了による償還金については、第37条第5項に規定する支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託者から交付を受けた金銭は、委託者に帰属します。

【投資信託契約の一部解約】

第40条 受益者は、自己に帰属する受益権につき、委託者に委託者または指定販売会社が定める単位をもって一部解約の実行を請求することができます。

委託者は、前項の一部解約の実行の請求を受付けた場合には、この投資信託契約の一部を解約します。なお、前項の一部解約の実行の請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求にかかるこの投資信託契約の一部解約を委託者が行うのと引き換えに、当該一部解約にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

前項の一部解約の価額は、一部解約の実行の請求受付日の基準価額とします。

受益者が第1項の一部解約の実行の請求をするときは、委託者、指定販売会社に対し、振替受益権をもって行うものとします。

委託者は、取引所における取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、第1項による一部解約の実行の請求の受付けを中止することおよびすでに受付けた一部解約の実行の請求の受付けを取消すことができます。

前項により一部解約の実行の請求の受付けが中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受益権の一部解約の価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受付けたものとして第3項の規定に準じて計算された価額とします。

【質権口記載または記録の受益権の取り扱い】

第41条 振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付け、一部解約金および償還金の支払い等については、この投資信託約款によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

【投資信託契約の解約】

第42条 委託者は、投資信託契約の一部を解約することにより、受益権の総口数が10億口を下回ることと

なった場合、またはこの投資信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、もしくははやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この投資信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託者は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

委託者は、前項の事項について、書面による決議（以下「書面決議」といいます。）を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに投資信託契約の解約の理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この投資信託契約にかかる知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。

前項の書面決議において、受益者（委託者およびこの信託の投資信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託者を除きます。以下本項において同じ。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使用することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。

第2項の書面決議は議決権を行使用することができる受益者の半数以上であって、当該受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。

第2項から前項までの規定は、委託者が投資信託契約の解約について提案した場合において、当該提案につき、この投資信託契約にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。また、投資信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、第2項から前項までに規定するこの投資信託契約の解約の手続を行うことが困難な場合には適用しません。

【投資信託契約に関する監督官庁の命令】

第43条 委託者は、監督官庁よりこの投資信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、投資信託契約を解約し信託を終了させます。

委託者は、監督官庁の命令に基づいてこの投資信託約款を変更しようとするときは、第47条の規定にしたがいます。

【委託者の登録取消等に伴う取扱い】

第44条 委託者が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託者は、この投資信託契約を解約し、信託を終了させます。

前項の規定にかかわらず、監督官庁がこの投資信託契約に関する委託者の業務を他の投資信託委託会社に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、第47条の書面決議が否決となる場合を除き、当該投資信託委託会社と受託者との間において存続します。

【委託者の事業の譲渡および承継に伴う取扱い】

第45条 委託者は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴い、この投資信託契約に関す

る事業を譲渡することがあります。

委託者は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴い、この投資信託契約に関する事業を承継させることがあります。

【受託者の辞任および解任に伴う取扱い】

第46条 受託者は、委託者の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託者がその任務に違反して投資信託財産に著しい損害を与えたことその他重要な事由があるときは、委託者または受益者は、裁判所に受託者の解任を申立てることができます。受託者が辞任した場合、または裁判所が受託者を解任した場合、委託者は、第47条の規定にしたがい、新受託者を選任します。なお、受益者は、上記によって行う場合を除き、受託者を解任することはできないものとします。

委託者が新受託者を選任できないときは、委託者はこの投資信託契約を解約し、信託を終了させます。

【投資信託約款の変更等】

第47条 委託者は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この投資信託約款を変更することまたはこの信託と他の信託との併合（投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。以下同じ。）を行うことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。なお、この投資信託約款は本条に定める以外の方法によって変更することができないものとします。

委託者は、前項の事項（前項の変更事項にあつては、その内容が重大なものに該当する場合に限ります。以下、併合と合わせて「重大な約款の変更等」といいます。）について、書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに重大な約款の変更等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この投資信託約款にかかる知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。

前項の書面決議において、受益者（委託者およびこの信託の投資信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託者を除きます。以下本項において同じ。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使用することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。

第2項の書面決議は議決権を行使用することができる受益者の半数以上であって、当該受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。

書面決議の効力は、この信託のすべての受益者に対してその効力を生じます。

第2項から前項までの規定は、委託者が重大な約款の変更等について提案した場合において、

当該提案につき、この投資信託約款にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。

前各項の規定にかかわらず、この投資信託において併合の書面決議が可決された場合にあっては、当該併合にかかる一または複数の他の投資信託において当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他の投資信託との併合を行うことはできません。

【反対者の買取請求権】

第48条 第42条に規定する投資信託契約の解約または前条に規定する重大な約款の変更等を行う場合には、書面決議において当該解約または重大な約款の変更等に反対した受益者は、受託者に対し、自己に帰属する受益権を、投資信託財産をもって買取すべき旨を請求することができます。この買取請求の内容および買取請求の手續に関する事項は、第42条第2項または前条第2項に規定する書面に付記します。

【他の受益者の氏名等の開示の請求の制限】

第49条 この信託の受益者は、委託者または受託者に対し、次に掲げる事項の開示の請求を行うことはできません。

1. 他の受益者の氏名または名称および住所
2. 他の受益者が有する受益権の内容

【信託期間の延長】

第50条 委託者は、信託期間満了前に、信託期間の延長が受益者に有利であると認めたときは、受託者と協議のうえ、信託期間を延長することができます。

【公告】

第51条 委託者が受益者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。

【投資信託約款に関する疑義の取扱い】

第52条 この投資信託約款の解釈について疑義を生じたときは、委託者と受託者との協議により定めます。

上記条項により投資信託契約を締結します。

平成22年6月24日

東京都中央区日本橋一丁目17番10号

委託者 新光投信株式会社

大阪府大阪市中央区備後町二丁目2番1号

受託者 株式会社りそな銀行

親 投 資 信 託
[新光 J - R E I T アクティブ・マザーファンド] 約 款
運用の基本方針

約款第16条の規定に基づき、委託者の定める運用の基本方針は、次のとおりとします。

1．基本方針

この投資信託は、わが国の取引所に上場（上場予定を含みます。）している不動産投資信託受益証券および不動産投資法人投資証券(以下総称して「不動産投資信託証券」といいます。)を主要投資対象として、配当等収益の確保と投資信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。

2．運用方法

(1) 投資対象

わが国の取引所に上場（上場予定を含みます。）している不動産投資信託証券を主要投資対象とします。

(2) 投資態度

主として、わが国の取引所に上場（上場予定を含みます。）している不動産投資信託証券に投資することにより、配当等収益の確保と投資信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。

個別銘柄の調査・分析に基づいて、相対的に高水準の配当金の確保を図りつつ、長期的な値上り益の獲得を目指しアクティブに運用を行います。

不動産投資信託証券の組入比率は、原則として高位とすることを基本とします。

運用にあたっては、株式会社りそな銀行より投資助言および情報提供を受けます。

設定当初等で投資信託財産が小規模である場合、市況の急激な変化が予想される場合、また、やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用を行わない場合があります。

(3) 投資制限

不動産投資信託証券への投資割合には制限を設けません。

同一銘柄の不動産投資信託証券への投資割合は、取得時において投資信託財産の純資産総額の20%以下とします。

不動産投資信託証券および短期金融商品（短期運用の有価証券を含みます。）以外には投資を行いません。

外貨建資産への直接投資は行いません。

3．収益分配方針

運用による収益は、信託終了時まで投資信託財産中に留保し、期中には分配を行いません。

投 信 用 語 集

【あ行】	
一部解約	受益者がファンドを途中換金される際、解約請求によりご解約されることをいいます。受益者は保有しているファンドの一部または全部を解約することができます。なお、ファンドによって解約請求可能日時が制限されるものがあります。（参考：解約請求）
運用報告書	投資信託がどのように運用され、その結果どうなったかを現在の運用内容と合わせて受益者に説明する報告書です。その内容は1．運用実績、2．期中の運用経過、3．今後の運用方針、4．その他（費用明細、売買状況、組入資産の明細等）などが説明されています。原則として投資信託の決算時や償還時に発行されます。
【か行】	
買取請求	償還期限前に投資信託を換金するための手段で、換金したい投資信託を販売会社買い取ってもらう方法です。（←→解約請求）
解約価額	基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額のことです。信託財産留保額がないファンドでは基準価額と解約価額は同じとなります。信託期間中に解約するときは、解約価額をもとに解約することになります。ファンドによって解約請求申込日の価額を適用するものや、その翌営業日等の価額を適用するものがあります。（参考：信託財産留保額）
解約請求	償還期限前に投資信託を換金するための手段で、販売会社を通じて運用会社に解約を請求し、投資信託契約上の財産の一部を切り崩してもらう方法です。（←→買取請求）
監査報酬	98年施行の証券取引法の改正ならびに投資信託法の改正により、投資信託について証券取引法のディスクロージャー（開示）の規定が適用され、このディスクロージャーの透明性を確保する視点から、公認会計士などの有資格者による監査が義務付けられました。監査報酬とは、このファンド監査に必要な費用のことで、目論見書などに負担方法などが記載されています。
基準価額	投資信託の時価を表す金額のことをいいます。 投資信託に組み入れている株式や公社債等をすべて評価し、債券の利息や株式の配当金等の収入を加えて資産総額を算出します。そこからファンドの運用に必要な費用などのコストを差し引いて純資産総額を算出し、さらにその日の受益権口数で割ったものが基準価額です。多くは、設定当初1口1万円または1円でスタートしますが、運用に応じて価額は変動することになります。なお、1口1円でスタートするものは、1万口当たりの価額で表示されることが一般的です。
繰上償還	償還日を待たずに投資信託を繰り上げて償還（終了）させることです。大量の解約により、残存する受益権の口数等が予め規定した水準を下回ると、信託期間終了前に委託者（運用会社）と受託者（受託銀行）が協議のうえ、受益者の賛否を問い、監督官庁に届け出ることによって信託を終了させる場合があります。また、運用会社がファンドを終了させることが受益者にとって有利であると判断したときは、受益者に繰上償還をすることの賛否を問い、承認されることを要件として繰上償還が実行できます。

クローズド 期間	投資信託の換金ができない期間のことです。運用資産の安定性確保の観点から、運用開始後一定期間は換金できない投資信託があります。原則として期間中は投資家の死亡など、極めて限られたケース以外は換金できません。
【さ行】	
純資産総額	投資信託に組み入れられている株式や債券を時価評価で計算して合計した総資産から、未払い金などの負債総額を差し引いたものです。その時点の時価で表示されるため、投資信託の規模を表す数字として利用されます。
償還	投資信託の信託期間が終了し、投資信託財産を投資家（受益者）に返還することです。
信託期間	投資信託の運用が終了するまでの期間のことです。
信託財産 （投資信託 財産）	投資信託を運用する資金のことです。または、投資信託商品に組み入れられている株券・債券などの総称として使う場合もあります。
信託財産 留保額	投資信託の解約時にかかる費用の一種です。信託期間の途中で換金する場合に基準価額から控除されるもので、運用の安全性を高めると同時に、保有者との公平性を確保するために運用資金の一部として投資信託財産中に留保されるものです。
信託報酬	投資信託財産の運用、組入証券の保管・管理、代行事務の取り扱いなどに対する対価として、投資家が投資信託財産から運用会社、販売会社、受託銀行に対して支払う費用です。目論見書や運用報告書の費用の項目に記載されています。
【た行】	
単位型（ス ポット型）	投資信託の分類方法の一つで、投資信託を設定した後、新規資金が追加されない投資信託です。購入は投資信託設定前の募集期間に限られるので、投資家（受益者）全員が同じ購入価格となります。「スポット型」、「ユニット型」とも呼ばれます。（←→追加型）
追加型（オ ープン型）	投資信託の分類方法の一つで、投資信託を設定した後も新規資金の追加が可能な投資信託です。資金の追加は、その時の基準価額によって行われます。「オープン型」とも呼ばれます。（←→単位型）
デュレー ション	債券投資元本の回収までに要する平均残存期間のことであり、債券投資から生ずる利子、満期償還金など将来のキャッシュ・フローが複利運用された結果が投資元本に等しくなる期間をいいます。言い換えると、債券または債券ポートフォリオの金利変動に対する価格の感応度を表しています。この数値が大きいほど金利変動に対する価格の感応度が大きく、小さいほど金利変動に対する感応度が小さくなります。
デリバ ティブ	株式や、金利、外国の通貨との交換などといった、金融上の取引から生まれたもので、先物取引など将来の価格などについての取引、またはその取引商品をさします。金融派生商品ともいいます。
【は行】	
販売手数料 （募集 手数料）	投資信託を購入するときに、投資家が販売会社に支払うコストのことです。そのタイプは内枠制（手数料が投資元本の中に含まれているもの）、外枠制（投資元本に手数料を上乗せしているもの）などがあります。

不動産投資 信託証券	不動産を主な投資対象とする投資法人あるいは投資信託の総称です。
不動産投資 法人投資証 券（不動産 投資信託証 券）	法人（不動産会社）そのもの、または投資信託委託会社によって運用される会社型投資信託（一種のペーパーカンパニー）が不動産に投資し、そこから生じる賃料や売却益を投資家に配当（正確には分配）する仕組みです。投資家には、株式または投資証券が発行され、通常の株式と同じように売買が行われます。一般に「J-REIT」と呼ばれている証券の全てあるいは大部分がこれに該当します。
分配金 再投資	追加型投資信託のうち、収益分配金で同一の投資信託を買い付ける仕組みのことです。再投資分の買い付けに際して手数料がかからないメリットがあります。自動継続投資、累積投資と呼ぶ場合もあります。
ヘッジ	リスクを避けるための手段のことです。値段が変わることによる価格変動リスクや円と外国の通貨の交換割合が変わることによる為替変動リスクなどを避けるためにとられます。
ベンチ マーク	投資信託の運用の目標となる指標です。例えばTOPIX（東証株価指数）や日経平均株価などが基準となります。アクティブ型ファンドの場合はベンチマークを上回る投資成果を目指し、インデックス型ファンドの場合はベンチマークとの連動を目指します。
ポート フォリオ	ファンドの場合、その運用資産全体がどのような運用対象の組み合わせになっているかを指しています。
【ま行】	
目論見書	募集中あるいは販売中の投資信託の商品内容、運用の仕組み、販売方法などを説明する書類のことです。運用の基本方針、費用と税金、募集要項などが詳しく説明されています。投資信託を購入する際には、目論見書で商品内容を確認する必要があります。 目論見書には、お申し込みの際に、あらかじめまたは同時に交付する「交付目論見書」と、投資家から請求があった場合に交付する「請求目論見書」があります。
【や行】	
約款（投資 信託約款）	正式には「投資信託約款」といいます。それぞれの投資信託の具体的な運営や管理などの詳細について規定したもので、いわばその投資信託が遵守する憲法です。この投資信託約款に基づいて、委託者と受託者は投資信託契約を締結します。投資信託の募集・設定に際しては、あらかじめ投資信託約款案を金融庁に届け出ることが義務付けられています。記載内容は、運用方法・投資対象・収益分配の方針・信託報酬率などの費用項目・手数料・委託会社や受託銀行の業務などとなっています。

りそなＪリート・アクティブ・オープン (旧ファンド名：Ｊリート・アクティブ・オープン)

愛称：日本のツボ

追加型投信 / 国内 / 不動産投信

当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。

投資信託説明書 (請求目論見書) 2010.9.1

- 本文書「投資信託説明書（請求目論見書）」は金融商品取引法（昭和23年法律第25号）第13条の規定に基づく「目論見書」です。
- 「投資信託説明書（請求目論見書）」はお客さまから請求された場合に交付されます。

新光投信株式会社

1. この目論見書により行う「りそな」リート・アクティブ・オープン」の募集について、委託者は、金融商品取引法（昭和23年法律第25号）第5条の規定により有価証券届出書を平成22年6月8日に関東財務局長に提出しており、平成22年6月24日にその届出の効力が生じております。
2. 「りそな」リート・アクティブ・オープン」の基準価額は、同ファンドに組み入れられる有価証券等の値動きによる影響を受けますが、これらの運用による損益は受益者のみなさまに帰属します。したがって、当ファンドは元本が保証されているものではありません。

■ 投資信託ご購入の注意 ■

- ・ 投資信託は、預金・金融債ではありません。預金保険の対象ではありません。元本の保証はありません。
- ・ 投資信託は、保険契約者保護機構の対象ではありません。保険契約における保険金額とは異なり購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。
- ・ 登録金融機関は、投資者保護基金には加入していません。
- ・ 投資信託の運用による成果は、受益者のみなさまに帰属します。
- ・ 投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、投資元本を割り込み損失を被ることがあります。
- ・ 投資信託は、その投資信託財産に組み入れられた株式・債券等の発行体の信用状況の変化（財務状況の悪化や倒産等）により、基準価額が下落して投資元本を割り込み損失を被ることがあります。
- ・ 投資信託は、経済環境等の要因による組入株式の株価の下落や、金利変動等による組入債券の価格の下落により、基準価額が下落して投資元本を割り込み損失を被ることがあります。
- ・ 外貨建資産を組み入れる投資信託は、外国為替相場の変動により、基準価額が下落して投資元本を割り込み損失を被ることがあります。
- ・ 一部の投資信託には、信託期間中に中途換金ができないものや、換金可能日時があらかじめ制限されているもののほか、換金時に信託財産留保額が控除されるもの等があります。
- ・ 投資信託は、商品によっては、上記以外でもその固有な要因により基準価額が下落して投資元本を割り込み損失を被ることがありますので、それぞれの『目論見書』にて必ず商品内容をご確認ください。

《有価証券届出書の表紙記載項目》

有 価 証 券 届 出 書 提 出 日	平成22年 6 月 8 日
発 行 者 名	新光投信株式会社
代 表 者 の 役 職 ・ 氏 名	代表取締役社長 吉田 昭
本 店 の 所 在 の 場 所	東京都中央区日本橋一丁目17番10号

届出の対象とした募集

募集内国投資信託受益証券に係る フ ァ ン ド の 名 称	りそなＪリート・アクティブ・オープン (旧ファンド名：Ｊリート・アクティブ・オープン)
募集内国投資信託受益証券の金額	当初自己設定 100億円を上限とします。 継続申込期間 1兆円を上限とします。
有 価 証 券 届 出 書 の 写 し を 縦 覧 に 供 す る 場 所	該当事項なし

目 次

【ファンドの詳細情報】	1
第 1 【ファンドの沿革】	1
第 2 【手続等】	1
1 【申込（販売）手続等】	1
2 【換金（解約）手続等】	1
第 3 【管理及び運営】	2
1 【資産管理等の概要】	2
2 【受益者の権利等】	6
第 4 【ファンドの経理状況】	7
第 5 【設定及び解約の実績】	7

【ファンドの詳細情報】

第1 【ファンドの沿革】

平成22年6月8日	関東財務局長に対して有価証券届出書提出
平成22年6月24日	投資信託契約締結、ファンドの設定・運用開始
平成22年9月1日	ファンドの名称を「Jリート・アクティブ・オープン」から「りそなJリート・アクティブ・オープン」(愛称:「日本のツボ」)に変更。

第2 【手続等】

1 【申込（販売）手続等】

- (イ) 取得申込者は、「分配金受取コース」および「分配金再投資コース」について、販売会社ごとに定める申込単位で、取得申込受付日の基準価額で購入することができます。ただし、「分配金再投資コース」で収益分配金を再投資する場合は1口単位となります。
- 取得申込者は、販売会社取引口座を開設のうえ、申込金額に手数料および当該手数料にかかる消費税等を加算した金額を販売会社が指定する期日までに支払うものとします。
- (ロ) 「分配金再投資コース」での取得申込者は、販売会社との間で「りそなJリート・アクティブ・オープン自動継続投資約款」(別の名称で同様の権利義務を規定する約款を含みます。)にしたがって契約(以下「別に定める契約」といいます。)を締結します。
- (ハ) 取得申し込みの受付は、原則として営業日の午後3時までとし、当該受付時間を過ぎた場合の申込受付日は翌営業日となります。ただし、受付時間は販売会社によって異なる場合があります。

2 【換金（解約）手続等】

一部解約（解約請求によるご解約）

- (イ) 受益者は、「分配金受取コース」および「分配金再投資コース」の両コースとも、販売会社が定める単位をもって一部解約の実行を請求することができます。
- なお、受付は原則として営業日の午後3時までとし、当該受付時間を過ぎた場合の申込受付日は翌営業日となります。ただし、受付時間は販売会社によって異なる場合があります。
- また、投資信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の解約請求に制限を設ける場合があります。
- (ロ) 受益者が一部解約の実行の請求をするときは、販売会社に対し、振替受益権をもって行うものとします。
- (ハ) 委託者は、一部解約の実行の請求を受け付けた場合には、この投資信託契約の一部を解約します。また、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。
- (ニ) 一部解約の価額は、一部解約の実行の請求受付日の基準価額とします。
- 一部解約に関して課税対象者にかかる所得税および地方税(法人の受益者の場合は

所得税のみ)に相当する金額が控除されます。

なお、一部解約の価額は、毎営業日に算出されますので、販売会社または下記にお問い合わせください。

新光投信株式会社 ヘルプデスク
フリーダイヤル 0120-104-694
(受付時間は営業日の午前9時～午後5時です。)

基準価額につきましては、新光投信株式会社のインターネットホームページ (<http://www.shinkotoushin.co.jp/>) または、原則として計算日の翌日付の日本経済新聞朝刊に掲載されます。また、お問い合わせいただけます基準価額および一部解約の価額は、前日以前のものとなります。

- (ホ) 一部解約金は、受益者の請求を受け付けた日から起算して、原則として、5営業日目から販売会社において受益者に支払われます。
- (ヘ) 委託者は、取引所における取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、一部解約の実行の請求の受付を中止することおよびすでに受け付けた一部解約の実行の請求の受付を取り消すことができます。
- (ト) 上記(ヘ)により一部解約の実行の請求の受付が中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、一部解約の価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受け付けたものとして、上記(二)の規定に準じて計算された価額とします。

第3 【管理及び運営】

1 【資産管理等の概要】

(1) 【資産の評価】

基準価額とは、投資信託財産に属する資産(受入担保金代用有価証券および借入有価証券を除きます。)を法令および社団法人投資信託協会規則にしたがって時価評価して得た投資信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額(以下「純資産総額」といいます。)を、計算日における受益権口数で除した金額をいいます。

基準価額は、毎営業日に算出されますので、販売会社または下記にお問い合わせください。

新光投信株式会社 ヘルプデスク
フリーダイヤル 0120-104-694
(受付時間は営業日の午前9時～午後5時です。)
インターネットホームページ
<http://www.shinkotoushin.co.jp/>

基準価額は、原則として計算日の翌日付の日本経済新聞朝刊に掲載されます。
また、お問い合わせいただけます基準価額は、前日以前のものとなります。

当ファンドの主な投資対象の評価方法は以下のとおりです。

投資対象	評価方法
親投資信託 受益証券	原則として、基準価額計算日の基準価額で評価
J - R E I T (不動産投資信託証券)	原則として、基準価額計算日の取引所の最終相場で評価

(2) 【保管】

該当事項はありません。

(3) 【信託期間】

当ファンドの信託期間は、投資信託契約締結日から平成32年6月22日までです。

委託者は、信託期間満了前に、信託期間の延長が受益者に有利であると認めたときは、受託者と協議のうえ、信託期間を延長することができます。

(4) 【計算期間】

当ファンドの計算期間は、原則として毎月23日から翌月22日までとします。ただし、第1計算期間は平成22年6月24日から平成22年7月22日までとします。

上記にかかわらず、上記の原則により各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日のとき、各計算期間終了日は該当日以降の営業日で該当日に最も近い日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日は、投資信託約款に定める信託期間の終了日とします。

(5) 【その他】

a．信託の終了（投資信託契約の解約）

(イ) 委託者は、投資信託契約の一部を解約することにより、受益権の総口数が10億口を下回ることとなった場合、またはこの投資信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、もしくははやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この投資信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託者は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

(ロ) 委託者は、上記（イ）の事項について、下記「c．書面決議の手続き」の規定にしたがいます。

(ハ) 委託者は、監督官庁よりこの投資信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、投資信託契約を解約し信託を終了させます。

(ニ) 委託者が監督官庁より登録の取り消しを受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託者は、この投資信託契約を解約し、信託を終了させます。

上記の規定にかかわらず、監督官庁がこの投資信託契約に関する委託者の業務を他の委託者に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、下記「c．書面決議の手続き」の規定における書面決議が否決となる場合を除き、当該委託者と受託者との間において存続します。

(ホ) 受託者は、委託者の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託者がその任務に違反して投資信託財産に著しい損害を与えたことその他重要な事由があるときは、委託者または受益者は、裁判所に受託者の解任を申し立てることができます。受託者が辞任した場合、または裁判所が受託者を解任した場合、委託者は、下記「b．

投資信託約款の変更等」の規定にしたがい、新受託者を選任します。なお、受益者は、上記によって行う場合を除き、受託者を解任することはできないものとします。

委託者が新受託者を選任できないときは、委託者はこの投資信託契約を解約し、信託を終了させます。

b．投資信託約款の変更等

(イ) 委託者は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この投資信託約款を変更することまたはこの信託と他の信託との併合（投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。以下同じ。）を行うことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。

(ロ) 委託者は、上記（イ）の事項（投資信託約款の変更事項にあっては、その内容が重大なものに該当する場合に限ります。以下、併合と合わせて「重大な約款の変更等」といいます。）について、下記「c．書面決議の手続き」の規定にしたがいます。

(ハ) 委託者は、監督官庁の命令に基づいてこの投資信託約款を変更しようとするときは、上記（イ）および（ロ）の規定にしたがいます。

この投資信託約款は上記に定める以外の方法によって変更することができないものとします。

c．書面決議の手続き

(イ) 委託者は、上記「a．信託の終了（投資信託契約の解約）」（イ）について、または「b．投資信託約款の変更等」（イ）の事項のうち重大な約款の変更等について、書面による決議（以下「書面決議」といいます。）を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに投資信託契約の解約の理由または重大な約款の変更等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、当ファンドにかかる知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。

(ロ) 上記（イ）の書面決議において、受益者（委託者およびこの信託の投資信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託者を除きます。以下本項において同じ。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。

(ハ) 上記（イ）の書面決議は議決権を行行使することができる受益者の半数以上であって、当該受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。

(ニ) 重大な約款の変更等における書面決議の効力は、当ファンドのすべての受益者に対してその効力を生じます。

(ホ) 上記（イ）から（ニ）までの規定は、委託者が投資信託契約の解約または重大な約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、当ファンドにかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。また、投資信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、上記（イ）から（ハ）までに規定する当ファンドの解約の手続きを行う

ことが困難な場合には適用しません。

- (ヘ) 上記(イ)から(ホ)の規定にかかわらず、当ファンドにおいて併合の書面決議が可決された場合にあっては、当該併合にかかる一または複数の他の投資信託において当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他の投資信託との併合を行うことはできません。

d．反対者の買取請求権

投資信託契約の解約または上記「b．投資信託約款の変更等」における重大な約款の変更等を行う場合において、書面決議において当該解約または重大な約款の変更等に反対した受益者は、受託者に対し、自己に帰属する受益権を、投資信託財産をもって買い取るべき旨を請求することができます。

上記の買取請求の内容および買取請求の手続きに関する事項は、上記「c．書面決議の手続き」で規定する書面に記載します。

e．運用報告書

当ファンドについて、委託者は原則として6ヵ月ごと（原則として6月、12月の各特定期間の終了時）および償還時に、期中の運用経過のほか、投資信託財産の内容、有価証券売買状況などを記載した運用報告書を作成します。

運用報告書は、あらかじめ受益者が申し出た住所に販売会社から届けられます。また、販売会社で、受け取ることができます。

f．公告

委託者が受益者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。

g．委託者の事業の譲渡および承継に伴う取り扱い

委託者は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴い、この投資信託契約に関する事業を譲渡することがあります。

委託者は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴い、この投資信託契約に関する事業を承継させることがあります。

h．信託事務処理の再信託

- (イ) 受託者は、当ファンドにかかる信託事務の処理の一部について日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社と再信託契約を締結し、これを委託することがあります。その場合には、再信託にかかる契約書類に基づいて所定の事務を行います。

- (ロ) 上記(イ)における日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社に対する業務の委託については、受益者の保護に支障を生じることがない場合に行うものとします。

i．信託業務の委託等

- (イ) 受託者は、委託者と協議のうえ、信託業務の一部について、信託業法第22条第1項に定める信託業務の委託をするときは、以下に掲げる基準のすべてに適合するもの（受託者の利害関係人を含みます。）を委託先として選定します。

- 1．委託先の信用力に照らし、継続的に委託業務の遂行に懸念がないこと
- 2．委託先の委託業務にかかる実績等に照らし、委託業務を確実に処理する能力があると認められること
- 3．委託される投資信託財産に属する財産と自己の固有財産その他の財産とを区分する等の管理を行う体制が整備されていること

- 4．内部管理に関する業務を適正に遂行するための体制が整備されていること
- (ロ) 受託者は、上記(イ)に定める委託先の選定にあたっては、当該委託先が上記(イ)各号に掲げる基準に適合していることを確認するものとします。
- (ハ) 上記(イ)および(ロ)にかかわらず、受託者は、次の各号に掲げる業務を、受託者および委託者が適当と認める者(受託者の利害関係人を含みます。)に委託することができるものとします。

- 1．投資信託財産の保存にかかる業務
- 2．投資信託財産の性質を変えない範囲内において、その利用または改良を目的とする業務
- 3．委託者のみの指図により投資信託財産の処分およびその他の信託の目的の達成のために必要な行為にかかる業務
- 4．受託者が行う業務の遂行にとって補助的な機能を有する行為

j．他の受益者の氏名等の開示の請求の制限

受益者は、委託者または受託者に対し、次に掲げる事項の開示の請求を行うことはできません。

- 1．他の受益者の氏名または名称および住所
- 2．他の受益者が有する受益権の内容

k．関係法人との契約の更改

委託者と販売会社との間において締結している「証券投資信託に関する基本契約」の有効期間は契約の締結日から1年ですが、期間満了前に委託者、販売会社いずれからも別段の意思表示のないときは自動的に1年間更新されるものとし、その後も同様とします。

また、委託者と投資顧問会社との間において締結している「投資顧問契約」の有効期間は契約の締結日から1年ですが、期間満了前に委託者、投資顧問会社いずれからも別段の意思表示のないときは自動的に1年間更新されるものとし、その後も同様とします。なお、委託者は、法律による解除権の行使以外に、相手方に対する事前の書面による解約申し入れによりこの契約を解約できるものとします。

2【受益者の権利等】

a．収益分配金請求権

収益分配金は、毎計算期間終了日後1ヵ月以内の委託者の指定する日(原則として決算日から起算して5営業日まで)に受益者に支払います。

受益者が、収益分配金について、支払開始日から5年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託者から交付を受けた金銭は、委託者に帰属します。

上記にかかわらず、「分配金再投資コース」の受益者の収益分配金は、原則として毎計算期間終了日の翌営業日に再投資されます。

b．一部解約請求権

受益者は、販売会社ごとに定める単位で、一部解約の実行を請求することができます。

一部解約金は、受益者の請求を受け付けた日から起算して、原則として、5営業日目から受益者に支払います。

c. 償還金請求権

償還金は、信託終了日後 1 ヶ月以内の委託者の指定する日（原則として償還日から起算して 5 営業日まで）に受益者に支払います。

受益者が、信託終了による償還金について、支払開始日から 10 年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託者から交付を受けた金銭は、委託者に帰属します。

第 4 【ファンドの経理状況】

当ファンドは平成 22 年 6 月 24 日運用開始であるため、当ファンドの有価証券届出書提出日現在、記載すべき事項はありません。

当ファンドの監査は、新日本有限責任監査法人が行います。委託者は、当ファンドの投資信託財産にかかる財務諸表を作成します。監査証明を受けたファンドの財務諸表は有価証券報告書に掲載されます。なお、当ファンドの有価証券報告書の提出は、法令の定めるところにより、6 ヶ月ごとに行われます。また、臨時報告書の提出が、3 ヶ月ごとに行われます。

第 5 【設定及び解約の実績】

当ファンドは平成 22 年 6 月 24 日運用開始であるため、当ファンドの有価証券届出書提出日現在、記載すべき事項はありません。

りそなJリート・アクティブ・オープン
(旧ファンド名:Jリート・アクティブ・オープン)

愛称:日本のツボ

りそなＪリート・アクティブ・オープン (旧ファンド名：Ｊリート・アクティブ・オープン)

愛称：日本のツボ

追加型投信 / 国内 / 不動産投信

当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。

投資信託説明書（目論見書）

2010.9.1

【訂正事項分】

2011年3月18日

新光投信株式会社

りそなＪリート・アクティブ・オープン

投資信託説明書（交付目論見書）

2010.9.1

【訂正事項分】

2011年3月18日

新光投信株式会社

1. 「りそなＪリート・アクティブ・オープン」の募集について、委託者は、金融商品取引法（昭和23年法律第25号）第5条の規定により有価証券届出書を平成22年6月8日に関東財務局長に提出しており、平成22年6月24日にその届出の効力が生じております。
2. 「りそなＪリート・アクティブ・オープン」の基準価額は、同ファンドに組み入れられる有価証券等の値動きによる影響を受けますが、これらの運用による損益は受益者のみなさまに帰属します。したがって、当ファンドは元本が保証されているものではありません。

1. 目論見書の訂正理由

「りそなＪリート・アクティブ・オープン」投資信託説明書（交付目論見書）2010年9月1日の記載事項のうち訂正すべき事項が発生したことにより、これに訂正を行うものです。

2. 訂正箇所および訂正事項（変更後の内容を記載してあります。）

第二部 【ファンド情報】

第1 【ファンドの状況】

1 【ファンドの性格】

(2) 【ファンドの仕組み】

b. 委託会社の概況〔交付目論見書（2010年9月1日）13頁〕

(イ) 資本金の額（平成23年1月末現在）

資本金の額 45億2,430万円

(略)

(ハ) 大株主の状況

(平成23年1月末現在)

株主名	住所	持株数	持株比率
みずほ証券株式会社	東京都千代田区大手町1-5-1	1,396,362株	76.58%
株式会社みずほ証券リサーチ & コンサルティング	東京都中央区日本橋1-17-10	122,000	6.69
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区内幸町1-1-5	91,086	4.99
株式会社みずほコーポレート銀行	東京都千代田区丸の内1-3-3	91,029	4.99

5 【運用状況】〔交付目論見書（2010年9月1日）26頁〕

(1) 【投資状況】

(平成23年1月31日現在)

分 類	資産の種類		国・地域	金 額	評価方法	投資比率
有価証券	投資証券		日 本	円 1,819,099,100	時価	% 29.2
			小 計	円 1,819,099,100	-	% 29.2
	親投資 信託	新光J・REITアクティブ・ マザーファンド受益証券	日 本	円 4,361,544,599	時価	% 70.0
			小 計	円 4,361,544,599	-	% 70.0
		その他 資産	コール・ローン等	日 本	円 51,632,367	負債控除後の 取得価額
-	純資産総額		円 6,232,276,066	-	% 100.0	

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。以下同じ。

(参 考)

当ファンドは、「新光J-REITアクティブ・マザーファンド」受益証券を主要投資対象としております。マザーファンドの投資状況は以下のとおりです。

(平成23年1月31日現在)

分 類	資産の種類		国・地域	金 額	評価方法	投資比率
有価証券	投資証券		日 本	円 4,295,923,800	時価	% 98.5
			小 計	円 4,295,923,800	-	% 98.5
			日 本	円 65,470,824	負債控除後の 取得価額	% 1.5
その他 資産	コール・ローン等		日 本	円 65,470,824	負債控除後の 取得価額	% 1.5
-	純資産総額			円 4,361,394,624	-	% 100.0

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

(平成23年1月31日現在)

順位	銘柄名	国・地域	種類	数量(口)	帳簿価額		評価額		投資比率 (%)
					単価 (円)	金額 (円)	単価 (円)	金額 (円)	
1	新光J-REITアクティブ・マザーファンド受益証券	日本	親投資信託	3,618,337,979	1.1948	4,323,454,000	1.2054	4,361,544,599	69.98
2	野村不動産レジデンシャル投資法人	日本	投資証券	870	481,000.00	418,470,000	477,000	414,990,000	6.65
3	ユナイテッド・アーバン投資法人	日本	投資証券	3,324	111,600.00	370,958,400	112,000	372,288,000	5.97
4	阪急リート投資法人	日本	投資証券	688	413,000.00	284,144,000	415,000	285,520,000	4.58
5	野村不動産オフィスファンド投資法人	日本	投資証券	331	570,000.00	188,670,000	583,000	192,973,000	3.09
6	プレミア投資法人	日本	投資証券	342	406,000.00	138,852,000	391,000	133,722,000	2.14
7	ケネディクス不動産投資法人	日本	投資証券	352	380,000.00	133,760,000	378,500	133,232,000	2.13
8	トップリート投資法人	日本	投資証券	208	510,000.00	106,080,000	518,000	107,744,000	1.72
9	平和不動産リート投資法人	日本	投資証券	1,456	53,500.00	77,896,000	53,500	77,896,000	1.24
10	FCレジデンシャル投資法人	日本	投資証券	87	249,900.00	21,741,300	247,000	21,489,000	0.34
11	積水ハウス・S I投資法人	日本	投資証券	48	385,000.00	18,480,000	378,000	18,144,000	0.29
12	グローバル・ワン不動産投資法人	日本	投資証券	23	743,000.00	17,089,000	765,000	17,595,000	0.28
13	森トラスト総合リート投資法人	日本	投資証券	18	820,000.00	14,760,000	855,000	15,390,000	0.24
14	ジャパンリアルエステイト投資法人	日本	投資証券	17	819,000.00	13,923,000	821,000	13,957,000	0.22
15	日本ホテルファンド投資法人	日本	投資証券	49	263,700.00	12,921,300	259,900	12,735,100	0.20
16	日本賃貸住宅投資法人	日本	投資証券	40	36,100.00	1,444,000	35,600	1,424,000	0.02

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する評価金額の比率です。なお、投資比率は小数第3位以下を切り捨てているため、合計と一致しない場合があります。以下同じ。

種類別投資比率（平成23年1月31日現在）

種 類	投資比率（％）
親 投 資 信 託	69.98
投 資 証 券	29.18
合 計	99.17

株式業種別投資比率（平成23年1月31日現在）

該当事項はありません。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(参 考)

当ファンドは、「新光」- R E I Tアクティブ・マザーファンド」受益証券を主要投資対象としております。マザーファンドの投資資産は以下のとおりです。

投資有価証券の主要銘柄

(平成23年1月31日現在)

順位	銘柄名	国・地域	種類	数量 (口)	帳簿価額		評価額		投資 比率 (%)
					単価 (円)	金額 (円)	単価 (円)	金額 (円)	
1	アドバンス・レジデンス投資法人	日本	投資証券	3,287	168,579.05	554,119,354	172,300	566,350,100	12.98
2	日本リテールファンド投資法人	日本	投資証券	2,612	146,657.75	383,070,055	150,700	393,628,400	9.02
3	オリックス不動産投資法人	日本	投資証券	741	498,708.64	369,543,105	508,000	376,428,000	8.63
4	森トラスト総合リート投資法人	日本	投資証券	424	796,500.48	337,716,204	855,000	362,520,000	8.31
5	フロンティア不動産投資法人	日本	投資証券	390	760,256.08	296,499,873	758,000	295,620,000	6.77
6	東急リアル・エステート投資法人	日本	投資証券	474	565,629.69	268,108,475	570,000	270,180,000	6.19
7	日本プライムリアルティ投資法人	日本	投資証券	1,224	229,897.28	281,394,281	219,900	269,157,600	6.17
8	ビ・ライフ投資法人	日本	投資証券	343	569,031.12	195,177,677	606,000	207,858,000	4.76
9	野村不動産オフィスファンド投資法人	日本	投資証券	315	568,789.85	179,168,805	583,000	183,645,000	4.21
10	大和証券オフィス投資法人	日本	投資証券	625	278,047.68	173,779,803	283,700	177,312,500	4.06
11	福岡リート投資法人	日本	投資証券	266	608,260.27	161,797,234	617,000	164,122,000	3.76
12	日本アコモデーションファンド投資法人	日本	投資証券	262	596,470.80	156,275,352	614,000	160,868,000	3.68
13	日本ビルファンド投資法人	日本	投資証券	162	822,502.36	133,245,383	860,000	139,320,000	3.19
14	ジャパンエクセレント投資法人	日本	投資証券	238	516,413.78	122,906,480	501,000	119,238,000	2.73
15	森ヒルズリート投資法人	日本	投資証券	368	294,335.96	108,315,635	281,000	103,408,000	2.37
16	ケネディクス不動産投資法人	日本	投資証券	248	370,589.45	91,906,184	378,500	93,868,000	2.15
17	ジャパンリアルエステイト投資法人	日本	投資証券	112	817,070.65	91,511,913	821,000	91,952,000	2.10
18	M I D リート投資法人	日本	投資証券	307	235,422.16	72,274,605	216,700	66,526,900	1.52
19	グローバル・ワン不動産投資法人	日本	投資証券	74	752,595.45	55,692,064	765,000	56,610,000	1.29
20	積水ハウス・S I 投資法人	日本	投資証券	133	360,172.51	47,902,945	378,000	50,274,000	1.15
21	ジャパン・ホテル・アンド・リゾート投資法人	日本	投資証券	134	252,075.22	33,778,080	255,500	34,237,000	0.78
22	トップリート投資法人	日本	投資証券	57	493,226.73	28,113,924	518,000	29,526,000	0.67
23	産業ファンド投資法人	日本	投資証券	63	378,138.09	23,822,700	394,000	24,822,000	0.56
24	ユナイテッド・アーバン投資法人	日本	投資証券	171	90,329.09	15,446,275	112,000	19,152,000	0.43
25	日本ホテルファンド投資法人	日本	投資証券	57	265,443.36	15,130,272	259,900	14,814,300	0.33
26	野村不動産レジデンシャル投資法人	日本	投資証券	23	352,217.13	8,100,994	477,000	10,971,000	0.25
27	プレミアム投資法人	日本	投資証券	14	366,933.57	5,137,070	391,000	5,474,000	0.12
28	平和不動産リート投資法人	日本	投資証券	96	41,463.20	3,980,468	53,500	5,136,000	0.11
29	阪急リート投資法人	日本	投資証券	7	363,114.57	2,541,802	415,000	2,905,000	0.06

種類別投資比率（平成23年1月31日現在）

種 類	投資比率（％）
投 資 証 券	98.49
合 計	98.49

株式業種別投資比率（平成23年1月31日現在）

該当事項はありません。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

（３）【運用実績】

【純資産の推移】

（単位：円）

期 間		純資産総額 (分配落ち)	純資産総額 (分配付き)	基準価額 (分配落ち)	基準価額 (分配付き)
第1期特定期間	第1期計算期間末	19,021,519	19,021,519	9,511	9,511
	第2期計算期間末	18,848,639	18,848,639	9,424	9,424
	第3期計算期間末	282,590,999	284,661,841	9,552	9,622
	第4期計算期間末	875,055,967	881,411,554	9,638	9,708
	第5期計算期間末	2,105,435,328	2,119,768,102	10,283	10,353
	第6期計算期間末 (平成22年12月22日)	3,615,113,473	3,644,378,662	11,118	11,208
平成22年6月末日		18,836,432	-	9,418	-
平成22年7月末日		19,347,402	-	9,674	-
平成22年8月末日		19,025,361	-	9,513	-
平成22年9月末日		495,782,617	-	9,714	-
平成22年10月末日		1,067,873,733	-	9,875	-
平成22年11月末日		2,525,301,368	-	10,399	-
平成22年12月末日		4,592,774,808	-	11,401	-
平成23年1月末日		6,232,276,066	-	11,175	-

（注）基準価額は1万口当たりの純資産額です。

【分配の推移】

特定期間	決算期	1万口当たりの分配金
第1期特定期間	第1期計算期間 (平成22年7月22日)	- 円
	第2期計算期間 (平成22年8月23日)	- 円
	第3期計算期間 (平成22年9月22日)	70円
	第4期計算期間 (平成22年10月22日)	70円
	第5期計算期間 (平成22年11月22日)	70円
	第6期計算期間 (平成22年12月22日)	90円

【収益率の推移】

特定期間	決算期	収益率
第1期特定期間	第1期計算期間 (平成22年7月22日)	4.9%
	第2期計算期間 (平成22年8月23日)	0.9%
	第3期計算期間 (平成22年9月22日)	2.1%
	第4期計算期間 (平成22年10月22日)	1.6%
	第5期計算期間 (平成22年11月22日)	7.4%
	第6期計算期間 (平成22年12月22日)	9.0%

(注1) 収益率とは、各計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落の額）を基準とした、各計算期間末の基準価額（分配付き）の上昇（または下落）率をいいます。なお、第1期計算期間の収益率は、1万口当たりの当初元本を基準に算出しています。

(注2) 収益率は小数第2位を四捨五入しています。

第2 【財務ハイライト情報】〔交付目論見書（2010年9月1日）31頁〕

- (1) 下記の貸借対照表、損益及び剰余金計算書並びに注記表は当ファンドの有価証券届出書「第三部 ファンドの詳細情報 第4 ファンドの経理状況」の「1 財務諸表」に記載された情報を抜粋して記載したものです。
- (2) 当ファンドの有価証券届出書「第三部 ファンドの詳細情報 第4 ファンドの経理状況」の「1 財務諸表」については、新日本有限責任監査法人による監査を受けており、当該監査報告書は当該有価証券届出書に添付されております。

りそな」リート・アクティブ・オープン 財務諸表

1 【貸借対照表】

	第1期特定期間末 〔平成22年12月22日現在〕
	金 額（円）
資産の部	
流動資産	
コール・ローン	96,985,275
投資証券	1,769,191,400
親投資信託受益証券	1,773,127,932
未収配当金	48,605,031
未収利息	156
流動資産合計	3,687,909,794
資産合計	3,687,909,794
負債の部	
流動負債	
未払収益分配金	29,265,189
未払解約金	41,090,219
未払受託者報酬	121,365
未払委託者報酬	2,305,940
その他未払費用	13,608
流動負債合計	72,796,321
負債合計	72,796,321
純資産の部	
元本等	
元本	3,251,687,685
剰余金	
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	363,425,788
（分配準備積立金）	294,147,095
元本等合計	3,615,113,473
純資産合計	3,615,113,473
負債純資産合計	3,687,909,794

2 【損益及び剰余金計算書】

	第1期特定期間 自 平成22年 6月24日 至 平成22年12月22日
	金 額 (円)
営業収益	
受取配当金	50,413,592
受取利息	27,278
有価証券売買等損益	316,778,877
営業収益合計	367,219,747
営業費用	
受託者報酬	211,200
委託者報酬	4,012,722
その他費用	24,280
営業費用合計	4,248,202
営業利益	362,971,545
経常利益	362,971,545
当期純利益	362,971,545
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額	41,469,974
期首剰余金又は期首欠損金 ()	-
剰余金増加額又は欠損金減少額	153,662,137
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	1,745,599
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	151,916,538
剰余金減少額又は欠損金増加額	59,713,528
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	29,321,163
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	30,392,365
分配金	52,024,392
期末剰余金又は期末欠損金 ()	363,425,788

< 注記表 >

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	第1期特定期間 自 平成22年 6月24日 至 平成22年12月22日
1.有価証券の評価基準及び 評価方法	(1) 投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、金融商品取引所及び外国金融商品市場における最終相場（最終相場のないものについては、それに準じる価額）に基づいて評価しております。 (2) 親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2.収益及び費用の計上基準	受取配当金 原則として、投資証券の配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。

第 4 【ファンドの詳細情報の項目】〔交付目論見書（2010年9月1日）32頁〕

当ファンドの有価証券届出書「第三部 ファンドの詳細情報」の記載項目は下記のとおりです。

(略)

第 4 ファンドの経理状況

1 財務諸表

(1) 貸借対照表

(2) 損益及び剰余金計算書

(3) 注記表

(4) 附属明細表

2 ファンドの現況

純資産額計算書

第 5 設定及び解約の実績

りそなＪリート・アクティブ・オープン
投資信託説明書（請求目論見書）

2010.9.1

【訂正事項分】

2011年3月18日

新光投信株式会社

1. 「りそなＪリート・アクティブ・オープン」の募集について、委託者は、金融商品取引法（昭和23年法律第25号）第5条の規定により有価証券届出書を平成22年6月8日に関東財務局長に提出しており、平成22年6月24日にその届出の効力が生じております。
2. 「りそなＪリート・アクティブ・オープン」の基準価額は、同ファンドに組み入れられる有価証券等の値動きによる影響を受けますが、これらの運用による損益は受益者のみなさまに帰属します。したがって、当ファンドは元本が保証されているものではありません。

1. 目論見書の訂正理由

「りそなＪリート・アクティブ・オープン」投資信託説明書（請求目論見書）2010年9月1日の記載事項のうち訂正すべき事項が発生したことにより、これに訂正を行うものです。

2. 訂正箇所および訂正事項（変更後の内容を記載してあります。）

【ファンドの詳細情報】

第4 【ファンドの経理状況】〔請求目論見書（2010年9月1日）7頁〕

- (1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）（以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。
なお、財務諸表等規則は、平成22年9月30日付内閣府令第45号により改正されておりますが、同内閣府令附則第3条1項1号により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。
また、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- (2) 当ファンドの計算期間は6ヵ月未満であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。
- (3) 当ファンドの第1期計算期間は、信託約款第31条第1項により、平成22年6月24日から平成22年7月22日までであります。第2期計算期間は、平成22年7月23日から平成22年8月23日まで、第3期計算期間は、平成22年8月24日から平成22年9月22日まで、第4期計算期間は、平成22年9月23日から平成22年10月22日まで、第5期計算期間は、平成22年10月23日から平成22年11月22日まで、第6期計算期間は、平成22年11月23日から平成22年12月22日までであります。
したがって、第1期特定期間は、平成22年6月24日から平成22年12月22日までであります。
- (4) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1期特定期間（平成22年6月24日から平成22年12月22日まで）の財務諸表について、新日本有限責任監査法人による監査を受けております。
- (5) 当ファンドの名称は、平成22年9月1日をもって、りそなＪリート・アクティブ・オープンに変更いたしました。

独立監査人の監査報告書

平成23年1月25日

新 光 投 信 株 式 会 社
取 締 役 会 御 中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士
業 務 執 行 社 員

田中俊之 

指定有限責任社員 公認会計士
業 務 執 行 社 員

伊藤志保 

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているりそなＪリート・アクティブ・オープン（旧ファンド名 Ｊリート・アクティブ・オープン）の平成22年6月24日から平成22年12月22日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、りそなＪリート・アクティブ・オープン（旧ファンド名 Ｊリート・アクティブ・オープン）の平成22年12月22日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

新光投信株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

1 【財務諸表】

りそなＪリート・アクティブ・オープン 財務諸表

(1) 【貸借対照表】

	第1期特定期間末 [平成22年12月22日現在]
	金 額 (円)
資産の部	
流動資産	
コール・ローン	96,985,275
投資証券	1,769,191,400
親投資信託受益証券	1,773,127,932
未収配当金	48,605,031
未収利息	156
流動資産合計	3,687,909,794
資産合計	3,687,909,794
負債の部	
流動負債	
未払収益分配金	29,265,189
未払解約金	41,090,219
未払受託者報酬	121,365
未払委託者報酬	2,305,940
その他未払費用	13,608
流動負債合計	72,796,321
負債合計	72,796,321
純資産の部	
元本等	
元本	3,251,687,685
剰余金	
期末剰余金又は期末欠損金 ()	363,425,788
(分配準備積立金)	294,147,095
元本等合計	3,615,113,473
純資産合計	3,615,113,473
負債純資産合計	3,687,909,794

(2) 【損益及び剰余金計算書】

	第1期特定期間 自 平成22年 6月24日 至 平成22年12月22日
	金 額 (円)
営業収益	
受取配当金	50,413,592
受取利息	27,278
有価証券売買等損益	316,778,877
営業収益合計	367,219,747
営業費用	
受託者報酬	211,200
委託者報酬	4,012,722
その他費用	24,280
営業費用合計	4,248,202
営業利益	362,971,545
経常利益	362,971,545
当期純利益	362,971,545
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額	41,469,974
期首剰余金又は期首欠損金 ()	-
剰余金増加額又は欠損金減少額	153,662,137
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	1,745,599
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	151,916,538
剰余金減少額又は欠損金増加額	59,713,528
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	29,321,163
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	30,392,365
分配金	52,024,392
期末剰余金又は期末欠損金 ()	363,425,788

(3)【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	第1期特定期間 自 平成22年 6月24日 至 平成22年12月22日
1.有価証券の評価基準及び 評価方法	(1) 投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、金融商品取引所及び外国金融商品市場における最終相場（最終相場のないものについては、それに準じる価額）に基づいて評価しております。 (2) 親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2.収益及び費用の計上基準	受取配当金 原則として、投資証券の配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。

(貸借対照表に関する注記)

区 分	第1期特定期間末 [平成22年12月22日現在]
1.期首元本額	20,000,000円
期中追加設定元本額	4,093,199,072円
期中一部解約元本額	861,511,387円
2.特定期間末日における受 益権の総数	3,251,687,685口

区 分	第1期特定期間 自 平成22年 6月24日 至 平成22年12月22日
分配金の計算過程	(1) 第1期計算期間(平成22年6月24日から平成22年7月22日まで) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(662,119円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(0円)、信託約款に定める収益調整金(0円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は662,119円(1万口当たり331.05円)ですが、分配を行っておりません。 (2) 第2期計算期間(平成22年7月23日から平成22年8月23日まで) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(266,965円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(0円)、信託約款に定める収益調整金(0円)及び分配準備積立金(662,119円)より分配対象収益は929,084円(1万口当たり464.53円)ですが、分配を行っておりません。 (3) 第3期計算期間(平成22年8月24日から平成22年9月22日まで) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(653,453円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(480,373円)、信託約款に定める収益調整金(12,819,892円)及び分配準備積立金(929,084円)より分配対象収益は14,882,802円(1万口当たり503.05円)であり、うち2,070,842円(1万口当たり70円)を分配しております。

区 分	第1期特定期間 自 平成22年 6月24日 至 平成22年12月22日
分配金の計算過程	(4) 第4期計算期間(平成22年9月23日から平成22年10月22日まで) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(2,476,117円) 費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(775,639円) 信託約款に定める収益調整金(39,993,141円) 及び分配準備積立金(2,007,681円) より分配対象収益は45,252,578円(1万口当たり498.39円)であり、うち6,355,587円(1万口当たり70円)を分配しております。 (5) 第5期計算期間(平成22年10月23日から平成22年11月22日まで) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(19,103,058円) 費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(81,488,517円) 信託約款に定める収益調整金(104,118,486円) 及び分配準備積立金(5,094,844円) より分配対象収益は209,804,905円(1万口当たり1,024.65円)であり、うち14,332,774円(1万口当たり70円)を分配しております。 (6) 第6期計算期間(平成22年11月23日から平成22年12月22日まで) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(23,835,187円) 費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(191,760,143円) 信託約款に定める収益調整金(251,703,542円) 及び分配準備積立金(78,551,765円) より分配対象収益は545,850,637円(1万口当たり1,678.65円)であり、うち29,265,189円(1万口当たり90円)を分配しております。

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

区 分	第1期特定期間 自 平成22年 6月24日 至 平成22年12月22日
1.金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。
2.金融商品の内容及びリスク	当ファンドの投資している金融商品は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。 当ファンドが投資している有価証券は、投資証券、親投資信託受益証券であり、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスク及び流動性リスクを有しております。
3.金融商品に係るリスクの管理体制	コンプライアンス部門、運用企画部門において、投資対象の各種リスクのモニタリング、管理等を行い、運用部門への指示、牽制を行っております。 また、社内の委員会において、各種リスクの評価、モニタリング結果の報告を行い、必要に応じ運用部門へ改善指示を行います。 市場リスク 市場の変動率とファンドの基準価額の変動率を継続的に相対比較することやベンチマーク等と比較すること等により分析しております。 信用リスク 組入銘柄の格付やその他発行体情報等を継続的に収集し分析しております。 流動性リスク 市場流動性の状況を把握し、組入銘柄の一定期間における出来高や組入比率等を継続的に測定すること等により分析しております。
4.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	市場価額がない、又は市場価格を時価と見なせない場合には、経営者により合理的に算定された価額で評価する場合があります。

金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額の時価との差額

貸借対照表上の金融商品は、原則としてすべて時価評価されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。

時価の算定方法

第1期特定期間末 [平成22年12月22日現在]	
1.投資証券及び親投資信託受益証券	「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」に記載しております。
2.コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務	これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価に近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

（有価証券関係に関する注記）

売買目的有価証券

種 類	第1期特定期間末 [平成22年12月22日現在]
	当特定期間の損益に含まれた評価差額（円）
投資証券	104,946,000
親投資信託受益証券	112,222,070
合 計	217,168,070

（デリバティブ取引等関係に関する注記）

取引の時価等に関する事項

種 類	第1期特定期間末 [平成22年12月22日現在]
	該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

	第1期特定期間 自 平成22年 6月24日 至 平成22年12月22日
	該当事項はありません。

（1口当たり情報）

	第1期特定期間末 [平成22年12月22日現在]
1口当たり純資産額 （1万口当たり純資産額）	1.1118円 （11,118円）

(4)【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

種 類	銘 柄	券面総額(口)	評 価 額(円)	備考
投資証券	野村不動産レジデンシャル投資法人	870	393,675,000	
	ジャパンリアルエステイト投資法人	17	14,212,000	
	プレミアム投資法人	342	141,417,000	
	グローバル・ワン不動産投資法人	23	16,905,000	
	野村不動産オフィスファンド投資法人	331	191,980,000	
	ユナイテッド・アーバン投資法人	3,324	336,388,800	
	森トラスト総合リート投資法人	18	14,220,000	
	平和不動産リート投資法人	1,456	76,148,800	
	ケネディクス不動産投資法人	352	129,360,000	
	積水ハウス・S I 投資法人	48	17,184,000	
	F C レジデンシャル投資法人	87	22,350,300	
	阪急リート投資法人	688	289,992,000	
	トップリート投資法人	208	111,280,000	
	日本ホテルファンド投資法人	49	12,666,500	
	日本賃貸住宅投資法人	40	1,412,000	
投 資 証 券 小 計		7,853	1,769,191,400	
親投資信託 受益証券	新光J - R E I T アクティブ・ マザーファンド	1,484,161,658	1,773,127,932	
親 投 資 信 託 受 益 証 券 小 計		1,484,161,658	1,773,127,932	
有 価 証 券 合 計		-	3,542,319,332	

(注) 投資証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「注記表(デリバティブ取引等関係に関する注記)」に記載しております。

(参考情報)

当ファンドは、「新光」- R E I Tアクティブ・マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同ファンドの受益証券であります。

なお、同ファンドの状況は次の通りであります。

「新光」- R E I Tアクティブ・マザーファンド」の状況

なお、以下に記載した情報は監査の対象外であります。

(1) 貸借対照表

	[平成22年12月22日現在]
	金 額 (円)
資産の部	
流動資産	
コール・ローン	364,189,979
投資証券	1,748,532,300
未収入金	42,000
未収配当金	2,025,067
未収利息	588
流動資産合計	2,114,789,934
資産合計	2,114,789,934
負債の部	
流動負債	
未払金	341,623,353
流動負債合計	341,623,353
負債合計	341,623,353
純資産の部	
元本等	
元本	1,484,161,658
剰余金	
剰余金又は欠損金 ()	289,004,923
元本等合計	1,773,166,581
純資産合計	1,773,166,581
負債純資産合計	2,114,789,934

(2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	自 平成22年 6月24日 至 平成22年12月22日
1.有価証券の評価基準及び 評価方法	投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、金融商品取引所及び外国金融商品市場における最終相場（最終相場のないものについては、それに準じる価額）に基づいて評価しております。
2.収益及び費用の計上基準	受取配当金 原則として、投資証券の配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。

(貸借対照表に関する注記)

区 分	[平成22年12月22日現在]
1.本報告書における開示対象ファンドの期首 における当該親投資信託の元本額	19,900,000円
同期中における追加設定元本額	1,464,261,658円
同期中における一部解約元本額	- 円
同期末における元本の内訳	
りそなJリート・アクティブ・オープン	1,484,161,658円
合 計	1,484,161,658円
2.本報告書における開示対象ファンドの期末 日における受益権の総数	1,484,161,658口

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

区 分	自 平成22年 6月24日 至 平成22年12月22日
1.金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。
2.金融商品の内容及びリスク	当ファンドの投資している金融商品は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。 当ファンドが投資している有価証券は、投資証券であり、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスク及び流動性リスクを有しております。
3.金融商品に係るリスクの管理体制	コンプライアンス部門、運用企画部門において、投資対象の各種リスクのモニタリング、管理等を行い、運用部門への指示、牽制を行っております。 また、社内の委員会において、各種リスクの評価、モニタリング結果の報告を行い、必要に応じ運用部門へ改善指示を行います。 市場リスク 市場の変動率とファンドの基準価額の変動率を継続的に相対比較することやベンチマーク等と比較すること等により分析しております。 信用リスク 組入銘柄の格付やその他発行体情報等を継続的に収集し分析しております。 流動性リスク 市場流動性の状況を把握し、組入銘柄の一定期間における出来高や組入比率等を継続的に測定すること等により分析しております。
4.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	市場価額がない、又は市場価格を時価と見なせない場合には、経営者により合理的に算定された価額で評価する場合があります。

金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額の時価との差額

貸借対照表上の金融商品は、原則としてすべて時価評価されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。

時価の算定方法

[平成22年12月22日現在]	
1.投資証券	「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」に記載しております。
2.コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務	これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価に近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

（有価証券関係に関する注記）

売買目的有価証券

種 類	[平成22年12月22日現在]
	当期間の損益に含まれた評価差額（円）
投 資 証 券	137,487,032
合 計	137,487,032

（注）「当期間」とは、当該親投資信託の計算期間の開始日から本報告書における開示対象ファンドの期末日までの期間を指しております。

（デリバティブ取引等関係に関する注記）

取引の時価等に関する事項

種 類	[平成22年12月22日現在]
	該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

	自 平成22年 6月24日 至 平成22年12月22日
	該当事項はありません。

（1口当たり情報）

	[平成22年12月22日現在]
本報告書における開示対象ファンドの期末における当該親投資信託の1口当たり純資産額 （1万口当たり純資産額）	1.1947円 （ 11,947円 ）

(3) 附属明細表

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

種 類	銘 柄	券面総額 (口)	評価額 (円)	備 考
投資証券	日本アコモデーションファンド投資法人	97	57,812,000	
	M I D リート投資法人	95	23,085,000	
	森ヒルズリート投資法人	151	44,288,300	
	野村不動産レジデンシャル投資法人	23	10,407,500	
	産業ファンド投資法人	39	15,600,000	
	アドバンス・レジデンス投資法人	1,467	255,111,300	
	日本ビルファンド投資法人	125	104,875,000	
	ジャパンリアルエステイト投資法人	100	83,600,000	
	日本リテールファンド投資法人	1,037	155,342,600	
	オリックス不動産投資法人	296	152,736,000	
	日本プライムリアルティ投資法人	518	125,200,600	
	プレミアム投資法人	14	5,789,000	
	東急リアル・エステート投資法人	130	72,020,000	
	グローバル・ワン不動産投資法人	4	2,940,000	
	野村不動産オフィスファンド投資法人	19	11,020,000	
	ユナイテッド・アーバン投資法人	171	17,305,200	
	森トラスト総合リート投資法人	178	140,620,000	
	フロンティア不動産投資法人	152	117,952,000	
	平和不動産リート投資法人	96	5,020,800	
	福岡リート投資法人	103	63,860,000	
	ケネディクス不動産投資法人	28	10,290,000	
	積水ハウス・S I 投資法人	17	6,086,000	
	大和証券オフィス投資法人	293	82,626,000	
	阪急リート投資法人	7	2,950,500	
	ジャパン・ホテル・アンド・リゾート投資法人	20	5,280,000	
	トップリート投資法人	17	9,095,000	
	ビ・ライフ投資法人	145	83,665,000	
	日本ホテルファンド投資法人	21	5,428,500	
	ジャパンエクセレント投資法人	142	78,526,000	
合 計		5,505	1,748,532,300	

(注) 投資証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「注記表(デリバティブ取引等関係に関する注記)」に記載しております。

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】（平成23年1月31日現在）

「りそな」リート・アクティブ・オープン」

資産総額	6,272,789,600 円
負債総額	40,513,534 円
純資産総額（ - ）	6,232,276,066 円
発行済口数	5,576,938,576 口
1万口当たり純資産額（ / ）	11,175 円

（参考）

「新光」- R E I Tアクティブ・マザーファンド」

資産総額	4,678,241,140 円
負債総額	316,846,516 円
純資産総額（ - ）	4,361,394,624 円
発行済口数	3,618,337,979 口
1万口当たり純資産額（ / ）	12,054 円

第5【設定及び解約の実績】〔請求目論見書（2010年9月1日）7頁〕

特定期間	計算期間	設定口数	解約口数
第1期特定期間	第1期計算期間	20,000,000口	- 口
	第2期計算期間	- 口	- 口
	第3期計算期間	275,834,594口	- 口
	第4期計算期間	628,610,948口	16,504,444口
	第5期計算期間	1,196,770,116口	57,172,051口
	第6期計算期間	1,991,983,414口	787,834,892口

（注）第1期計算期間の設定口数は、当初の自己設定口数です。